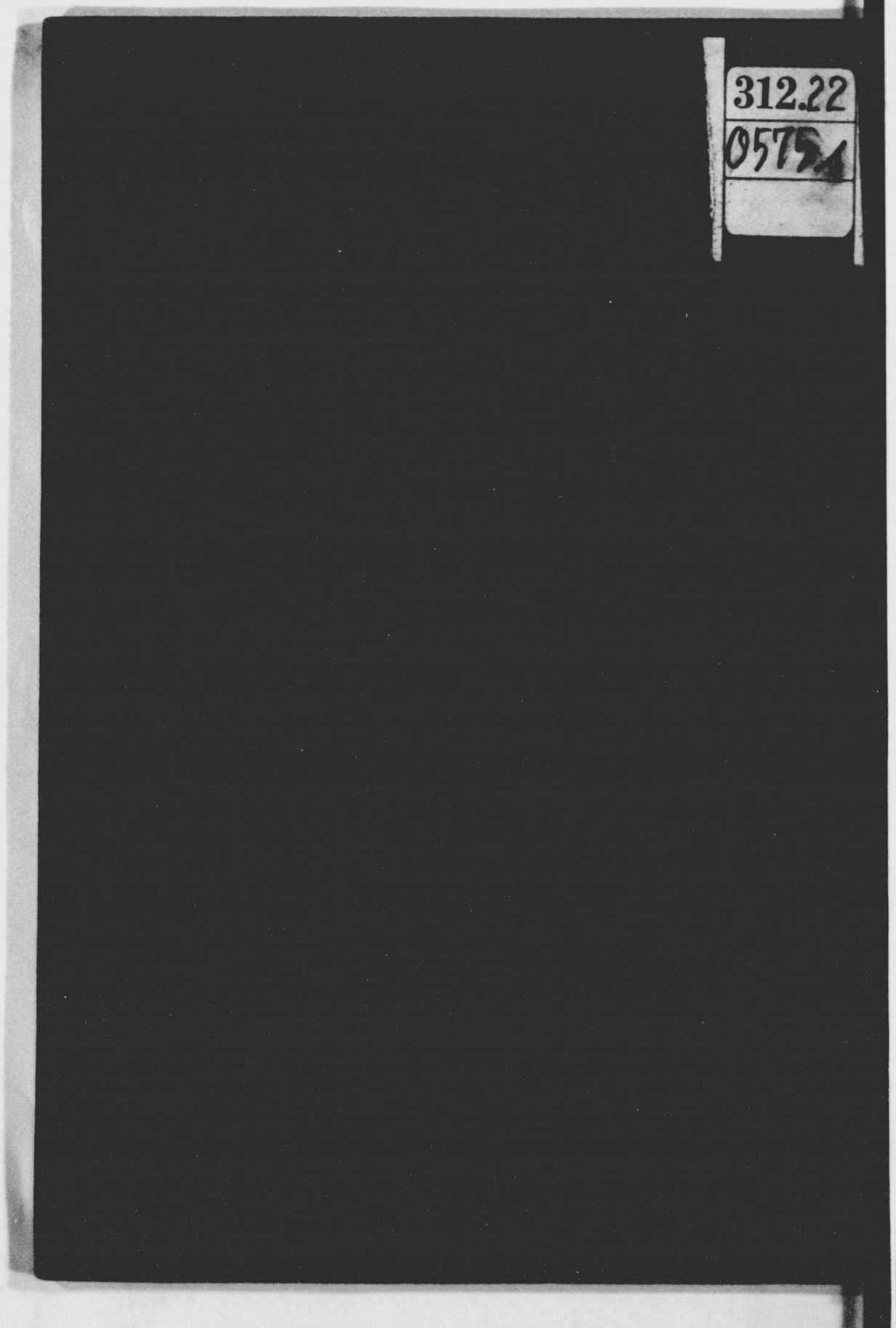


0005340000

3

0005340-000

312.22-0575s

赤色支那

大久保弘一・著

高山書院

1938

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権
第６７条の規定に基づき、平成１２年５月１
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの

7M-77

那支色赤

著一弘保久大　陸軍省新聞班
陸軍歩兵中佐

★
★★

高山書院

312.22
0575s

31873

序

今日支那共產軍及び中國共產黨は東亞政局に於ける一つの注目すべき勢力となつてゐる。今後もまた東亞に展開される諸情勢は、この支那に於ける共產勢力を無視しては判斷し得ない。さればこそ今回の支那事變は擴大し、一方、日、獨、伊三國の防共協定成立ともなつたのである。

世界は今正に防共と容共に二大分されんとしてゐる。防共を信條とする日本、獨逸、伊太利に對し聯ソ或ひは容共國としての佛國、支那があり、東京、伯林、羅馬樞軸對モスコウ、重慶、パリ樞軸は支那（既に中華民國に非ず）及びスペインを地軸として大廻轉を續けてゐる。

茲十年の短期間に於て赤化の魔手は、あらゆる角度から支那に侵入して共

産主義徹底排撃の日本に對し思想的に一大敵國を形成し、日本の防共負擔を一層加重せしめてゐる。

支那赤化問題を語るためにはソ聯邦の國際共産黨（コミンテルン）、中國共産黨、中國共産軍（紅軍）を關聯せしめて見なければ、その概貌は捉み得ない。何となれば中國共産軍は中國共産黨の指導下に在り、更に中國共産黨は國際共産黨（コミンテルン）の指導下に在つて所謂三位一體をなしてゐるからである。

支那赤化運動は外蒙赤化に始まつて、中支、南支の各區に於けるソビエット區の創設となり、邊境方面は外蒙より更に延びて綏遠、察哈爾にも一時及んだが、今正に新疆をも完全に赤一色に塗り潰さうとする工作が進められつゝある。支那は既にアジアの火藥庫であつた。その火藥庫の導火線であつたのが支那に於ける共産勢力であつた。

されば支那に於ける赤化運動が如何に發生し、發展し、如何に活動して現代支那、否極東日本までも攪亂せんとしつゝあるか、その概容を明かにしやうとするのが本書を編した所以である。

本書編纂に當つては各方面の資料に基き、概要を力めて平明に說述したもので大體に於て支那共産運動の輪廓のみは捉み得るやう期した積りであり、更に防共精神涵養の一助ともならんことを希求した點もある。時節柄必ずしも徒爾ではないと考へたのであるが小著幸に企圖した所を幾分でも江湖に貢獻し得るならば欣びとする所である。

尙ほ本書の編纂執筆等は軍務忽忙の間、時間的に余裕を持たない著者の到底能く之をなし得ない所であるが陸軍省記者倶樂部員、讀賣新聞社政治部大

熊武雄君の絶大なる助力に負ふたことを、茲に付記し併せて感謝の意を表するものである。

不備の點等は大方の御寛讀を乞ふ次第である。

歩兵中佐　大久保弘一識

赤色支那

序言

中國共産黨概史

支那共産運動の沿革

一、支那赤化の誘因……一
　支那赤化の第一段階（對内事情）……一
　第二段階（對外的事情）……二
二、共産軍の發生……三
一
五

中國共産黨と共産軍の關係 …… 六
コミンテルンと中國共産黨の關係 …… 七
中國共産黨成立より國民革命軍の北伐まで …… 九
一、中國共産黨成立す …… 九
二、中國共産黨第一次大會と第二次全國大會 …… 三
三、三全大會と勞働者運動 …… 一八
四、中國共産黨と國民黨の合作（國共合作） …… 二二
五、國共合作後の共産黨の謀略 …… 二三
六、孫文客死後の國民黨内の對立 …… 二八
七、蔣介石の共産派彈壓着手 …… 三〇

國共離反 …… 三三
一、武漢政府の成立 …… 三三
二、南京政府の成立 …… 三六
三、國共の決裂 …… 三九
共産黨の暴動政策 …… 四一
一、共産黨の盲動と共産軍 …… 四一
二、共産黨六全大會と共産黨領袖の勢力消長 …… 四三
蒙古及邊境の赤化過程 …… 四六
一、外蒙に對する赤化侵略（共産主義の矛盾） …… 四六

二、露蒙條約の締結……五〇
三、外蒙古及邊境ソビエット化の實情……五四
滿洲に於ける共産運動……六〇
一、東滿地方……六一
二、南滿地方……六八
三、北滿地方……七〇
四、ソ聯邦共産黨及び國際工作班の對滿活動……七一
華北地方に於ける共産運動……七三
一、共産黨は北支に於てどんな活躍をしたか……七四

日本に於ける中國共産黨の活動……八一
一、日本に於ける中國共産黨の生長發展……八一
二、特支の活動狀況……八八
三、中國共産黨中央部の指令と黨員梅雲龍の日本潛入……九一
四、黨外活動の概況……九七
五、『日本特支』事件の經過と結末……一〇〇
六、『華僑班』事件……一〇三
七、留東新聞社事件……一二四
八、中國文藝家協會員事件……一三〇
支那赤化とソビエット聯邦……一三九

一、露支政治關係の發端……一三九
二、支那赤化の先驅者ヨッフエとカラハン……一四五
三、コミンテルンの活動……一五二
四、露支斷交……一五八
五、奉露戰勃發……一六二
六、露支國交恢復……一六四
支那共産軍……一六七
一、共産軍の概念……一六七
二、共産軍の勢力分布……一六九
三、支那共産軍活動の本源……一七四
共産軍の組織編制……一七六
一、共産軍の發生……一七六
二、共産軍の組織……一七七
三、共産軍の編制……一八三
ソビエット區……一九二
中華ソビエット共和國及びその憲法……二〇三
一、中華ソビエット共和國臨時政府の成立……二〇三
二、中華ソビエット共和國憲法……二〇六
中國共産青年團……二一三

中國民族武裝自衛委員會……二二六
國共合作とその誘因西安事件……二二七
支那事變と中國共産黨及び
コミンテルンの動き
支那事變發生直前及び直後の共産軍と共産黨……二三五
一、共産黨の對日傾向……二三五
二、支那事變に對する共産黨の態度方針……二三七
三、共産軍の北上……二三九

四、支那共産軍の抗日戰線統一と對日政策……二三〇
五、ソビエット聯邦の支那事變に對する態度……二三三
支那事變發生以後の共産黨及共産軍……二三五
一、事變直後のソ、支關係急角度の進展……二三五
二、事變發生後に於けるソ聯邦の策動……二三七
三、事變後の重要黨員の動靜……二三八
四、事變後に於ける共産軍の活躍……二四一
五、事變後の中國共産黨活動情況……二四四
六、支那事變を楔機とせる國共妥協成立の經過……二四七
七、國共妥協の根底探求……二六一

新聞紙上に現はれたる事變後の共産黨の動き……二六
結　言……二九六
附　錄……三〇五
一、共産主義は何故失敗か……三〇七
二、中國共産黨領袖略歷……三一六
（終　り）

中國共産黨概史

支那共産運動の沿革

一、支那赤化運動の誘因

支那開闢數千年、儒教、佛教の國として四圍の諸國を南蠻、北狄、東夷、西戎と稱し自ら中華の稱呼を跨つた支那が、ついこの最近十年間にして何が故に共産化するにいたつたものであらうか。

支那に於ける共産運動が驚くべき發展を遂げた原因として二つの要素を見極めなければなるまい。外交的にはソビエット政府卽コミンテルンの指導援助——勿論政治的欲望を經とし思想的欲望を緯としたソ聯の世界赤化の大野望に基くものである——に依るものであつて、此れが最も重大な要素となつてゐる。對內的には支那に於ける第一革命以後の社會

情勢に依るものである。

(1) 支那赤化の第一段階（對外的事情）

ソビエット政權は世界赤化の大野望を達成しやうとするため、先づその巨大な手をアジア赤化に指向した。そしてその當然の對象として支那に對して邁進的活動を開始した。

先づその具體的手段として對支不平等條約を撤廢し、ロシア帝政時代、支那に於て獲得した既得の利權をアッさり放棄する等の大膽卒直の友好的態度に出で、革命ソビエット政權は支那の同情者であり支持者であるといふ念を支那全土に植ゑつけるために、あらゆる角度よりの工作を施した。更に一九二四年支那に於ける國共合作（國民政府と支那共産黨との提携）より一九二七年の國共分裂に至る三ケ年間、共産黨は支那に於ては合法團體として存在し、其の活動も公然と容認されたこと自體が、かくも短期間に共産運動を支那全土に發展せしめ得た第一段階である。

(2) 第二段階（國內的事情）

さて支那自體について見れば第一革命以後に於ける國內の客觀的社會情勢は、一般大衆にとつて極めて戰慄すべき社會情勢が展開された。卽ち、軍閥多年の鬪爭に依つて樂土は一瞬にして焦土と化し、國民は戰亂のため生業を奪はれ、全く「百姓各々其の處を得る」なといふことは藥にしたくも、槿花一朝の夢と霧散して了つた。

多年の戰亂によつて土地は荒廢し産業は衰微し、其の上軍閥はその軍費は固よりのこと、私腹を肥やすに汲々として占領地に對する巨額の賦課金及び遠慮會釋なき徵發を强制した。

苛斂誅求至らざるなき斯の如き情勢に中産階級は沒落し、其處にプロレタリアートとブルジョアとの對立懸隔が激化した結果、プロレタリアートは暴戾なる軍閥打倒、貪官汚吏の膺懲を時こそ得たりとして第一のスローガンとして掲げて活躍した共産黨に共鳴して、

忽ちこれに喰ひ付いて恐るべき主義に依存しやうとしたことは、その歴史的課程より見れば當然のことであつた。

玆に於てか、共産主義運動は國外よりの觸手と相俟つて、忽ち全支のプロレタリアートの團結を組織せしめたのである。更に支那赤化の過程を經濟的方面より見れば第一革命以降の資本主義の發達、外國資本の侵入に伴ふ工業の勃興により工場勞働者の出現增加を見た結果、これ等による勞働運動が必然的に反帝國主義と結んで革命的性質を帶びて來たこと、更に工業勃興の副産物として外國商品の農村侵入は農民にとつては急激な生活費の膨脹を招來するに至つたに拘らず、軍閥の兵亂は依然日夜相次ぎ苛斂誅求はいよ〳〵苛烈となり、中貧農民の生活は全く根底より破壞し盡くされやうとして、農村は根本より崩壞の憂き目に逢はんとするに至つた。そこで農民は自己生活擁護のため團結を結成して對策樹立に腐心したが、結局は土地の公平なる分配を政綱とする共産主義を謳歌するといふ現象が發生し、その結果は恐るべき共産黨の指導に依つて或ひは農民軍となり、或ひは紅軍となり、共匪となり、この大集團が共産軍となつて驚くべき發達を遂げて、侮るべからざる一大勢力を形成するにいたつたのである。

斯くして支那共産運動は萠芽狀態より正に果實を結ばんとしつゝあつた折柄、近代支那唯一の英傑として出現した蔣介石は孫文の遺志を繼いで北伐の軍を進め、またゝく間に北伐を完成して了つた。

二、共産軍の發生

これによつて第一革命以來の南北二大派對立の分野は解消され張學良の東北軍閥、閻錫山の山西軍閥、馮玉祥の西北軍閥等に分割されたが、これ等各軍閥に屬しない雜軍は依然各地に割據して斷續的兵亂は容易に其の後を絶たゝなかつた。此の斷續的兵亂の間隙に乘じて、雜軍は益々その勢力を伸張して現在の共産軍となるにいたつたものである。昭和二年八月一日、當時國民革命軍の有力者たる賀龍、葉挺、朱德の率ゐる三軍が、武漢政府を

逐はれた共產黨の幹部と通謀して、江西の南昌を占領したこと（八・一暴動事件と云ふが、現在の共產軍の濫觴であらう。爾來共產軍の構成分子の內容は幾多の變遷を見てはゐるが、今日尙ほ之の大部分は國民黨軍隊から離反して來たものとか、地方の土匪であつたものとか、强制的に徵集せられた農民が加はつてゐるのである。

(1) 中國共產黨と共產軍との關係

共產黨は中國共產政治區の最高機關と云はれてゐる中華ソビエット共和國中央政府內に設けられた工農革命軍事委員會によつて統制せられることになつてゐるが、事實は必ずしもしかく單一整然たる組織系統によつて成立してゐる譯でもない。例へば現に中華ソビエット中央政府主席であり又共產黨の元老とされてゐる毛澤東及び工農軍事委員會主席たる朱德を始めその他の巨頭は、各々共產軍內にその基本勢力を擁して相對立することもあり、殊に黨權派と軍權派との對立は、時として外部に現はれる程深刻な鬪爭を展開することもあつた。

だからと云つて、現在の共產軍を目して一概に輕視し去ることも出來ないのである。何となれば共產軍を操縱してゐる幹部は、共產主義に共鳴し心からこれを信奉してゐる者であり、更にその背後で絕えず直接間接の作用を營みつゝある共產黨の存在をも無視することは出來ないからである。殊に各部隊に付してある政治工作員の中には最も忠實且つ有能な共產黨員を配して共產主義教育の徹底を期すると共に、その權限を擴大して軍隊に對する共產黨の指導權を强化することに努力してゐる現狀であるから、その將來は益々輕視し得ないわけである。

(2) 國際共產黨と中國共產黨の關係

ソビエット聯邦の國際共產黨と中國共產黨乃至共產軍との關係は相當密切な關係にあることは、今次の支那事變に際しての諸般の事象に照しても容易に推測し得られるところで

ある。昭和十年夏、モスクワに於て行はれた第七回コミンテルン大會の情況を見ても、或ひは右會議に列席した中國代表張國燾等が直接共産軍に身を投じて活躍してゐる事實に徴しても首肯し得られるところである。

今次の支那事變勃發直前にはソビエット、或ひはコミンテルンの在支宣傳、金融等の機關を上海方面より北支に移動し且つ強化しつゝあつたことは明白となるにいたつた。現在の如くソビエット勢力の國府侵入に伴ひ世上傳へられた蘇支密約の如く國民政府とソビエット政府の接近を始め支那民間有力者が私的にもソビエットと手を握つて策動するものが著しく增加しつゝあるので、これ等が直接、間接に共産黨乃至共産軍に作用してゐることは玆兩三年の間に頂點に達したものと見られる。又中國共産黨及共産軍の總經費として年額一千三百萬元（最近或ひは更に增額せられてゐるであらう）は國際共産黨より依然として上海に送付されてゐた。

これ等の情勢から判斷して支那の對ソ依存心の熾烈性は今や支那事變を契機として最頂點に達したものと見るべきであらう。

そして共産黨乃至共産軍は現在支那に偉大なる勢力を君臨せしめるにいたり、今回の支那事變を契機として國民政府は再度の國共合作を斷行して、聯ソ容共政策に依つて日本に對し最後の抵抗を試みつゝある。

かく見來れば、東亞の禍根は從來の如き混亂の支那に非ずして赤化支那に在る。赤化支那はアジアの火藥庫であり、とりも直さずスペインと相並んで全世界の火藥庫でもある。

中國共産黨成立より國民革命軍の北伐まで

一、中國共産黨成立す

一九二〇年、歐洲全土を擧げて人類を慘禍の坩堝の中に投げ込んだ世界大戰の最後の幕をヴエルサイユに閉ぢた翌年である。世界は戰爭の一切を忘れてたゞ平和を希念した。戰

爭は再びあつてはならない。人類永遠の平和をもたらすべき機關が創建されなければならぬ機運に向つた。そして生れたものは國際聯盟であり、その第一回總會はジュネーヴに於て開かれた。これも一九二〇年である。

この年支那に於ては既に民國九年といふ星霜を閲したに拘らず、依然軍閥は各地に割據對立して安徽、直隷兩派の交戰は開始される等、建國の基礎は漸く動搖を來して人心頻りに惘々たる狀態であつた。

中國共產黨の成立も實に此の年であつた。中國共產黨の成立した直接の原因は、その數年以前の學生を中心とするインテリゲンチュアの思想運動にその端を發するものといふべきであらう。共產主義運動は、先づ北京大學を中心として起つた。一九一八年、北京大學教授李大釗が既に同大學を飛出して、實際運動に身を投じてゐた上海の陳獨秀と相呼應して、マルクス主義研究會を組織したのが抑々はつきりした共產主義的團體の嚆矢であるとされてゐる。續いて一九一九年春の、所謂二十一ケ條要求に對する北京大學生の反對運動は各地の學生の組織を促進し遂に學生聯合會の結成を見るにいたつた。而して爾後に於ける諸重大事件の勃發に際しての學生の活動は、初期の中國無產階級運動に於いて沒却すべからざる足跡を留めてゐるのである。

一方陳獨秀は上海の左翼インテリゲンチュアを糾合して、中國勞働組合書記部を組織し先づ學生大衆に働きかけてコムミユニストを養成し、これを中心機關として勞働者の組織並に運動の指導に當らしめんと期してゐた。そしてこれが共產黨に結實するにいたつた契機は遙々支那赤化の機會を覗つてゐたコミンテルンの積極的指導を得るにいたつたのである。一九二〇年の初め、コミンテルンより特派されたウオイチンスキーは北京の李大釗、上海の陳獨秀等としば〳〵會合して協議を行つた結果、一九二〇年九月中國共產黨は玆に創立されたのである。參加列席した黨員は陳獨秀、張東孫（當時上海時事新報主筆）邵力子（當時上海民國日報主筆）周佛海（日本留學生）戴天仇、張太雷、陳望道等十余名及びコミンテルンより派遣された前記ウオイチンスキーであつた。此の會合に於ては政綱、宣

言等は決定にいたらなかつたが、先づ次の諸事項を決議した。

（イ）各地に工會（勞働組合）を組織し黨員を漸次獲得する。

（ロ）ソビエット聯邦へ留學生を派遣する前提として外國語學校を設立する。

（ハ）機關誌『共產黨』を創刊すること。

斯くして中國共產黨は結黨されたのであるが、爾後陳獨秀は專ら黨勢擴張のため活動しその年十月廣東に赴いて中國共產黨廣東支部を設立し譚平山、陳公博等がこれに入黨した。その後間もなく北京、漢口、長沙、濟南等に相次で支部が設立され東京、パリに在つた留外生に對しても宣傳が開始された、一方創立大會の際決議した機關誌『共產黨』も創刊され外國語學校は上海に設立された。

二、中國共產黨第一次全國大會と第二次全國大會

かくして中國共產黨の基礎は漸く確立し、漸次黨勢の擴充するに及んで、翌一九二一年十月、第一次全國代表大會（一全大會）が上海の佛租界に開かれた。コミンテルンからウオイチンスキーの外にマアリンの二名、各地方の代表者としては十一名、その他關係列席者六、七十名であつた。地方代表は陳公博、包惠僧（廣東代表）李漢俊、李達（上海代表）張國燾、劉仁靜（北京代表）董必武、陳譚秋（武漢代表）毛澤東、何叔衡（長沙代表）周佛海（留日學生代表）であつた。

後日の大立物毛澤東は、當時より長沙代表として共產運動の實施に熱意を有してゐたことがわかる。

此の時陳獨秀は廣東に赴いてゐたゝめ、此の一全大會に缺席したゝめ綱領も宣言も決定を見るにいたらなかつたのであるが、同大會はコミンテルンへの加入を決議し次いで中央委員長に陳獨秀、同副委員長に周佛海、同組織部長に張國燾、同宣傳部長に李達を黨幹部として選擧した。

此の一全大會前後に、後に著名となつた李大釗、周恩來、瞿秋白、于樹德、林祖涵等の有

力者が入黨してコミンテルン指導の下に國際共産黨中國支部として正式に活動を開始するにいたつた。これと期を同うして中國共産主義青年團が成立したが、これも陳獨秀等によつて創立されたもので爾後種々の故障があつたゝめ一九二一年一旦これを解消して張太雷がモスコーの青年共産主義インターナショナル（キム）の指令の下に再組織し一九二二年五月一全大會を開いたが、それ以來中國共産黨の補助機關として活潑な活動を續けたのである。一全大會の後、中國共産黨は青年層に於ける鬪士の獲得を目標として、文化運動といふ好名目の下に學生聯合會にその觸手を延ばし、また勞働者を組合運動に組織するための基礎的敎育を開始した。黨の國際的活動の第一歩として、イルクーツクに開かれたコミンテルンの極東被壓迫民族會議に三名の代表を派遣出席せしめた。

二全大會

次いで一九二二年五月第二次全國代表大會が廣東に於て開かれ、こゝに始めて中國共産黨としての宣言が發表された。創立後間もない中國共産黨の初期に於ける思想及び動向をはつきり宣言中に示してゐるが、宣言の主要部分は次の通りである。

中國共産黨は無産階級政黨である。その目的は無産階級を組織し、鬪爭手段に依り、勞農專制の政治を建設し、私有財産を破除し漸次一の共産主義的社會に到達せんとするものである。中國共産黨は現在に於ては勞働者と貧農との利益のために、勞働者を指導して民主主義の革命を援助し、勞働者と貧農又び小資産階級に依る民主主義の聯合戰線を作らなければならない。中國共産黨は勞働者の利益のために、この聯合戰線内に在つて次の如き目標を定めて奮鬪するものである。

（一）　内亂の消滅、軍閥打倒、國内平和建設

（二）　國際帝國主義の壓迫排除、中華民族の完全なる獨立

（三）　中國本部（東三省を含む）を統一して、眞正なる民主共和國となす

（四）　蒙古、西藏、回疆三部の自治を實行して眞正なる民主共和國となす

（五）自由聯邦制を採用して、中國本部、蒙古、西藏、回疆を統一して中華聯邦共和國を建設す

（六）勞働者及び農民は男女を問はず各階級議會、市議會に於て制限なき選擧權を得、言論、集會、出版、結社、罷業の絶對自由を有す

（七）勞働者、農民及び婦女に關する法律を制定す

（イ）勞働者待遇の改善。請負制の廢止。八時間勞働制の實施。工場は職工醫院及びその衞生設備を設く。工場保險。女工及び少年工保護、失業勞働者保護

（ロ）重稅の廢止。全國の土地稅則制定

（ハ）厘金及び一切の額外稅則の廢止。累進所得稅の制定

（ニ）田租率を制限する法律の制定

（ホ）女子を束縛する一切の法律の廢止。女子に政治上、社會上、教育上すべて平等の權利を享受せしむ

（ヘ）教育制度の改良。教育普及の實行

以上の七大項目は勞働者、農民及び小資產階級の何れにとつても利益で、彼等を壓迫から解放するために絶對必要な條件である。吾人にして自ら解放のために共同奮鬪するならば勞働者及び貧農は黨の旗幟下に集り、小資產階級も亦吾人と聯合するであらう。勞働者は絶えず自ら獨立せる一個の階級であることを考へ、自己の組織力と戰鬪力とを練り、貧農と聯合してソビエットを組織することを準備し、完全なる解放の目的を達しなければならない。

中國共產黨は共產インターナショナルの一支部である。黨は中國被壓迫大衆が更に將來は全世界革命民衆と協同して肩を並べて目的達成に前進せんことを希望する。これ卽ち全世界解放への路である。

この中國共產黨最初の宣言は所謂共產黨政策の公式的說明に終始してはゐるが、此の時より支那は既にソ聯邦の赤色浸潤に脆くも國家を赤色の手に委ねたのであつた。何となれ

ば右宣言の第四項目に蒙古、西藏、回疆（新疆）の三部に自治を實行して眞正なる民主共和國となす旨を宣言せしめたソ聯邦は今や外蒙、新疆を完全に自己勢籠中のものとしたからである。此の時より既に共產主義は一個の主義としてではなく、侵略政策の手段となつてゐたことを雄辯に語つてゐるではないか。

三、三全大會と勞働者運動

二全大會に於て宣言を決定した中國共產黨は先づ勞働者に向つて頻りに働きかけ、黨の補助機關たる中國勞働組合書記部を中心として、勞働者の組織運動を展開し、各地勞働組合の聯絡を計り、遂に一九二二年五月、廣東に於て第一次勞働大會を開くにいたつた。そして次の如き決議事項を決定した。

（一）全國總工會組織の準備をすること

（二）第二次勞働大會を準備すること

（三）プロフインテルン（赤色國際勞働組合）に加入すること

而して此の第一次勞働大會と前後して共產黨得意の戰術であるストライキは、支那各地に大規模に開始されるにいたつたのであるが、中國共產黨による最初のストライキとして重要なものを擧げて見れば次の通りである。

一九二二年一月十三日より三月五日まで香港に於て海員のストライキが行はれ五十餘日にわたる支那最初の大規模な罷業で、發端は支那人船員と英人船主との間の爭議であつたが、やがて香港、上海全勞働者の總罷業にまで發展し遂に英國政府の香港政廳と當時の廣東政府（孫文）との抗爭を見るにいたり、參加勞働組合三十二、人員九萬一千三百名を算し、事實上共產黨の指導の下に結局勞働者側の勝利に歸したのであつた。

又同年十二月には開灤炭坑ストライキが行はれ、更に翌一九二三年二月京漢鐵道總罷業が惹起した。京漢鐵道には一九二一年春から勞働組合が組織され、翌年八月全線從業員の總罷業が勝利を占めた。一九二三年二月鄭州に於ける鐵路總工會の創立大會當日、北京の

吳佩孚はこれに向つて大彈壓を加へた結果、鐵道從業員の總罷業を激成し漢口に於ては從業員約一萬餘のデモが敢行され三百名餘の死傷者を出す等、各所に流血事件が繰返された結果、右の總罷業は全く失敗したが、左翼勞働組合運動は却つて燎原の火の如く八方に燃え擴がるといふ結果を招來した。

かくの如き情勢下に、一九二三年六月中國共産黨は廣東に於て第三次全國代表大會を開いた。此の大會に於て決定された最重要問題は中國共産黨の中國國民黨への加入決議が行はれたことで、國共合作及び現在の國民政府の聯露容共の淵源も此に存してゐたのである。共産黨が國民黨への加入を決議した原因は、二全大會終了後入露した陳獨秀が歸國して間もなく、コミンテルンから國民黨への加入命令を受けたことに在る。かくて中國共産黨は國民革命運動の協力者として、先づ封建的軍閥の政權を打倒せんとする新政策を採用するにいたつたのである。

四、中國共産黨と國民黨との合作

袁世凱討伐の革命運動を起して失敗した孫文は、一九二〇年廣東に歸つて從來の中華革命黨を中國國民黨と改稱した。其の後上海に亡命した孫文はロシア革命の成功に暗示を受けて勞働者、農民の組織に着眼し、大衆的國民運動と共に反帝國主義運動によつて民族的統一を實現せんと期し、これがためソビエット聯邦と提携するのみならず、ソ聯の出店である中國共産黨とも協力を辭するものに非ずといふ決心をした。

孫文の斯る心境の變化は、孫文自らが終世の念願とした革命成就の方法に就いて舊戰略の行き詰りに苦惱してゐた際、これを見透したコミンテルンより積極的に働きかけて行つたことに起因したのであつたが、これが後日國民政府をして誤らしめる原因となり、ソ聯邦と中國の腐緣ともなつたのである。

コミンテルンは一九二〇年十一月中國共産黨第一次全國代表大會にコミンテルン代表と

して出席せしめたマアリンをして、國民革命再建に焦慮中の孫文を廣西省桂林に訪問せしめた。この會見の結果が孫文の聯露政策の出發點となつたのである。爾後間もなく中國共産黨幹部は相次いで國民黨へ入黨し政策決定に重大な影響を與へつゝあつたが、一九二二年八月ロシア有數の外交家ヨッフェは上海に於て孫文と會見し、その結果孫文は自己の腹臣廖仲愷を時恰も日本へ向つたヨッフェに同行せしめて、ソ聯邦との提携に就いて具體的な協議を行はしめ、玆に孫文の聯露容共政策は確立したのである。其の後、孫文は先づ國民黨革命軍編成案樹立のため參謀長蔣介石をソ聯邦に派遣した。一九二三年八月である。

蔣介石は革命軍工作をソビエットに學んで翌年歸國、有名な黃埔軍官學校を創立し後の北伐完成に巨大な礎石を築いた。

一方ソ聯邦は孫文との提携成るや、革命政治工作の最高顧問としてボロデインを支那に派遣した。ボロデインは廖仲愷と共に國民黨の改革に着手し、中國共産黨員はこれを絶好の機として大多數國民黨へ加入し、國民革命の大成を擁護する方策に出でた。

一九二四年一月、國民黨第一次全國代表大會は、國民黨改組の重大問題を正式に決定すべく廣東に開催された。大會は九日間連續し、新政策に基く宣言、政綱は可決され、勞働者、農民に對する生活條件の改善と組織の保護を確立して大衆に基礎を置く民族革命遂行の實行力を獲得すべく驅進の第一歩を踏み出した。共産黨員は總て個人の資格を以て國民黨に入黨したのであるが、この大會に於て中央執行委員に指名された共産黨員は李大釗、譚平山、于樹德の三名で、毛澤東、林祖涵、瞿秋伯、于方舟、韓麟符、張國燾の九名は中央執行委員候補となつたのである。此の時は未だ中央執行委員の數の上では少數であつたが、彼等共産黨員の背後には陳獨秀の率ゐる中國共産黨があり、更にボロディン以下の國民黨顧問を有してゐた中國共産黨の國民黨内に於ける勢力は、國共合作後いくばくもなくして驚異的發展を遂げたのである。

五、國共合作後の共産黨の謀略

中國共産黨成立より國民革命軍の北伐まで

國民黨と合作して黨員を國民黨に加入せしめた中國共產黨は、國民黨內の左翼領袖たる汪兆銘、廖仲愷と結んで政治、軍事、勞働、農民等の各方面に特派されたソ聯邦顧問の謀略の下に大衆の組織に專心したゝめ、短時日の間に國民黨內に於ける共產派の勢力は牢固たる勢力を占めるにいたつたのである。

元來此の國共合作は前に述べた如く共產黨が黨として國民黨と合同したのではなく、中國共產黨員が個人の資格で國民黨に入黨したのであるから、その限りに於て國民革命の達成に協力するといふことである。しかも中國共產黨の黨首的地位に在つた陳獨秀は國民黨に入黨せず、中國共產黨獨自の活動母體の中に立て籠つて譚平山その他の鬪士を入黨せしめることに依つて、國民黨を指導左右せんことを企圖したのである。

國共合作卽ち國民黨の容共後の國民黨の變化は著しく目立つた。卽ち第一は國民黨の組織改革であつて、それまでの國民黨は近代的政黨としての組織は全く缺如してゐたが、共產派の加入と共に委員制度を採用し中央黨部、省黨部、縣黨部、區黨部等の階級を設けて各黨部に共產派の細胞を植ゑつけた。最高顧問ボロデインと共產黨の首腦部から發する政策や命令は、この細胞を通じて國民黨の各部の會議を決定せしめ、表面は國民黨の主張として實行に移された。コミンテルンの意思は、かくの如くにして遂に國民黨を動かし得る處にまで到達した。

第二に目立つたことは共產派は國民黨を通じて大衆運動の組織を確立し、これを共產黨の掌中に收めんとした。卽ち國民黨部に工人部、農民部、商民部、青年部、婦女部、海外部等の民衆運動の各部を設け、譚平山が組織部長となつて、各部に共產派の鬪士を入れて、猛烈な組織運動を展開したのである。

これを要するに國共合作によつて國民黨は、國民革命達成の方途としてコミンテルン乃至は中國共產黨を利用したのであつたが、コミンテルンとしては支那に拔くべからざる共產勢力を扶植する目的のために國民黨を利用したもので、恰も狐と狸の化し合ひの如き觀を呈したのである。

かくして共産派は大衆に對する組織運動に全力を傾注すると共に、工場勞働者に對する組織運動に重點を置き、先づ上海の勞働組合を打つて一丸とした上海總工會を組織し、次いで河南、京津地方その他の勞働組合の指導權を獲得し海員組合及び鐵道從業員組合の全國的組織の完成に成功し一九二五年五月、廣東に第二次全國勞働大會（第一次は一九二二年五月）を開き、五十四萬人の組合員を有する百六十五組合の代表者二百七十八名が會合の結果、全國組合の統一成つて中華全國總工會の創立となり、ブロフインテルン（赤色勞働組合インターナショナル）の指導の下に活動することゝなつた。

これよりさき、同年二月既に上海の內外綿會社にストライキが起り、共産黨の指導下に勞働者側の勝利に歸するや、ストライキは流行物の如く各地に波及して同四月天津及び靑島の日本人紡績にも飛火し、五月中旬には再び上海に於ける日本人紡績工場の罷業となつた。會社側は遂に最後の手段に訴へ紡績工場、製粉工場を閉鎖し、二萬以上の勞働者に閉め出しを行つたゝめ、五月末社員と職工の衝突を惹起し、死傷者を出した。これに憤激した上海左翼學生は五月卅日、大示威運動を行ひ、示威行進が共同租界南京路の租界警察署前に至るや、租界警察隊は忽ちこれに發砲して死傷者を出した。玆に於て上海總商會、各路商會聯合會、工會（勞働組合）及び學生聯合會はこの事件に對し

（イ）日英兩國の謝罪賠償

（ロ）日英總領事の召還

（ハ）租界回收、治外法權撤廢

（ニ）日英兩國軍隊の上海撤退

を要求した上、外國側工場の總罷業を宣言した結果、數日を出でずして流血の慘事は各所に展開された。此の結果は全支に漲る反帝國主義運動の展開となつたのであるが、此の事件に際して中國共産黨內に於て特にすぐれた手腕を發揮してゐたのは、後に黨の首領的地位にまで到達した李立三であつた。

六、孫文客死後の國民黨内の對立

中國共産黨は以上の如くにして國民黨内に確乎たる地盤を築き上げ大衆組織にも相當喰ひ込んだが一九二五年三月、孫文は北京に於て客死した。此の時の國民黨内の情景は一九三六年暮、蔣介石が張學良の左派の手によつて西安に監禁された所謂西安事件の際の如き上を下への大騒動が展開されたのであつた。

孫文客死によつて國民黨の容共政策に分裂を來し黨内は遂に内訌を生じた。當初から黨内に於ける容共政策を潔しとしてゐなかつた馮自由一派、張繼等の右翼派は中央委員會に對し曾て共産派彈劾案を提出したが、孫文在世中は問題として採り上げられるに至らなかつたのであつた。孫文客死と共に反共産派と共産派は公然と對立した結果、左派及び共産派は結束を固くして廣東に據り、一九二五年六月廿四日委員制に依る政府組織法を發布して七月汪兆銘、廖仲愷、胡漢民等の十六名を政治委員とする國民政府を組織樹立し、その實權は黨顧問ボロディン等を中心とする共産派の手中に收められた。

一方右翼派は國民黨同志倶樂部として結束し、左派に對抗して反目抗爭は益々激成され、遂に左派の中心人物たる廖仲愷は右派の手によつて暗殺されるといふ土壇場まで發展してしまつたのである。

然るに孫文を失つた後の國民黨は、軍隊の實權を掌握してゐた蔣介石の隱然たる勢力によつて自然に統帥されざるを得なくなつて行つた。そこで實權を掌握した利に賢明なる蔣介石は、中國を統一するためには左右兩派の妥協を策せねばならぬといふ方策を確立して、左右兩派の調停に乘出した。其の際、蔣介石が發した左右兩派調停に關する宣言は、次の如きものであつた。

「國民黨が國民革命の責任を完成し、直接にわが孫文總理の理想とした三民主義を實行するのは、卽ち間接的に國際共産主義を實行することゝ同じことになるのである。三民主義の成功と共産主義の發展とは、兩者全く相關關係に置かれてゐるのである。予は三

民主義の信徒であると同時に共産主義に對しても亦忠實なる同志である』と。

今日まで容共政策を採用し、或ひは共産派彈壓を事として、其の場合々々によつて政策を變更して一定の確乎たる方針を持ち得なかつた蔣介石は、笑止や當時は共産主義の『忠實なる同志』であつたのである。

七、蔣介石の共産派彈壓着手

張繼、馮自由等の右翼派は蔣介石の右の如き左右兩派調停に關する宣言にも拘らず、北京西郊に所謂西山會議を開き、一九二五年十月、中央執行委員第四次全體會議の名を以て、共産黨の國民黨籍削除、政治委員取消、ボロデインの最高顧問解雇、汪兆銘の懲戒等の決議を行つたのであるが、これに對して廣東に於ける左派は翌一九二六年一月、國民黨第二次全國代表大會を開き、共産黨及左派の勢力を、どし〳〵伸暢せしめて行つた。右大會に於て汪兆銘に次ぐ得票を以て中央執行委員に當選した蔣介石は、國民革命總監に親任せられ、事實上の實權を公式に掌握してしまつた。

これと同時に蔣介石は左右兩派の葛籐の不利を自覺し俄然從來の態度を豹變して、その本來の政治的手腕を發揮し、さきの左右兩派調停宣言は全く打ち忘れたかの樣に斷乎共産派驅逐の方針を確立し、孫文の遺志を繼いだ北伐出師の血祭りに共産派の大彈壓を開始した。先づ第一に表面に現はれた事實は中山艦事件である。卽ち蔣の共産派彈壓方針に先手を打たんとした共産派はクーデターを決行せんとして同年三月廿日、海軍局長李之龍を中山、寶壁の二艦を黃埔軍官學校に廻航せしめんとしたが未然に發覺し、蔣は逆に李之龍を捕縛し、軍官學校內の共産黨代表を監禁し、共産系糾察隊の武裝を解除し、東山に在るロシア人顧問の邸宅を包圍した。この逆襲的クーデターによつて主席汪兆銘はフランスに亡命した結果、自然軍權と共に政權も亦蔣介石の手中に歸することゝなつた。

第二の共産黨彈壓は續いて五月廿五日の中央執行委員會に蔣は黨務整理案を提出可決せしめたが、同案は專ら共産黨の國民黨內に於ける活動の自由を制限するための規則であつ

た。同案の重點をなす『元來の國民黨員以外の黨員にして國民黨に加入せる者は黨中央機關の部長に任命することを得ず』の項によつて組織部長たりし譚平山は辭職を餘儀なくされたのである。

第三は北伐を廻つての國民黨と共產派の意見對立に端を發してゐる。當時北方軍閥の頽勢は國民黨にとつては將に北伐出陣の好機であつた。然るにその時共產派は北伐尙早論を唱へ、ボロデインも亦此の主張であつたことを却つて彈壓の好機とした蔣は、共產派の北伐反對の態度に對し極度に憤慨して、共產派を彈壓これを沈默せしめたのであつた。

かくして近代支那としては劃期的事件であつた國民革命軍の北伐進發となつたので、共產派も已むを得ずに、北伐軍に從ひ專ら勞働者農民に對する組織、宣傳工作を行つたのである。處が後に至つて此の北伐の成功こそは、中國共產黨が長江以南の廣大な地域の農民の間に、拔くべからざる地盤を植ゑ付け得た機會を提供したことになつたものであつた。

國共離反

一、武漢政府の成立

一九二六年七月、廣東より北伐進發せんとした蔣介石は國民革命軍總司令に就任し、同月廿八日北伐の軍事工作を開始した。爾後二ヶ年後の一九二八年七月には既に北伐を完成し、その年の十二月には最後迄殘つた東三省（滿洲）にも青天白日旗を翻へしたといふ驚異的成績を以て、北伐の鋒を收めたのであつた。

當時の北伐軍の進擊を回顧するに、廣東出發後二ヶ月にして早くも長江の線を確保した華々しい戰果は、蔣介石がソ聯邦から歸國して設立した黃埔軍官學校の近代的訓練を受けた所謂青年將校團の威力に依るものであるが、一面その蔭には全國民革命軍內に採用されてゐた共產派のコミッサール組織があつたからでもある。

コミツサール組織は國民革命軍中の各司令部に國民黨代表と政治委員を置き又國民黨代表は總司令部、軍、師は固より連、排、班（中、小、分隊）にまで配置され軍隊と行動を共にしつゝ兵卒の教育、革命の宣傳に從事した。以上の如き國民黨代表、政治委員、黃埔軍官學校出身の青年士官のトリオが結束して革命精神を形成し、これが北伐成功の原動力となつたのである。此の組織は國民黨最高顧問ボロデイン及び軍事顧問ガロン（現在ソ滿國境に在るソ聯邦極東軍總司令官ブリユッヘル）等が苦心して編成したもので、國民黨員の資格に於て有力な多數の共產黨員が、このコミサールとして活動を續けたゝめに北伐の進行と共に蔣介石が好むと好まざるに拘らず、共產派の勢力は牢固たる地盤を獲得するにいたつたのである。共產黨は斯の如くコミツサールとして黨員を活動せしめたのみならず、或ひは糾察隊として或ひは便衣隊となつて舊軍閥治下の各地に潛入し農民、勞働者、學生等の大衆組織を以て國民革命軍の進路を切り開くと共に、占領地の政治工作を擔當し、實勢力の扶植に專念した。

他方共產黨は國民黨內の總政治部の實權を握る極左派の鄧演達一派と結び、武漢地方最強の軍閥唐生智と提携して黨內に於ける指導的勢力を強化し、蔣介石の北伐の業半ば成就し國民政府の北遷論起るや、蔣介石派の南昌說に反對、武漢說を固持して國民黨左派と共に武漢に集り國民政府の武漢移轉を實現せしめやうとした。一方右派は蔣介石を擁して南昌に赴き中央黨部及び國民政府を南昌に置き、外交、交通、財政の三部を武漢に置くべく主張したが、いくばくもなくして左派に屈服し一九二七年二月遂に武漢に移り、武漢政府は玆に成立したのであつた。

北伐の成功及び武漢移轉成功に氣を良くした共產黨及び左派は、右派を蔑視するの態度に出で事每に右派を壓迫して、國民黨の組織改造を決議せしめた結果、國民革命軍總司令は廢止せられるの已むなきに至り、從つて蔣介石はその實權を剝奪されて一介の軍事委員として隅の方に置かれ、政府委員の椅子は殆んど共產黨及び左派によつて獨占せられた。

二、南京政府の樹立

この浚落的形勢をジツとこらへながら、當時抗州攻撃中の蔣介石は長江下流方面に於ける新たなる自派勢力の確立を企圖するに至つた。然るにこれを察知した共産派は一九二七年三月廿一日、上海を共産派の手によつて占領し、一方蔣は南京を占領したが、共産派は更に之を邪魔せんとしてあらゆる策謀を試み、蔣を失脚せしめんと企てた南京事件を惹起せしめた。（三月廿四日）

玆に於て流石の蔣介石も怒り心頭に發し斷乎共産派との關係を斷絶せんと決意してゐた折柄、外遊から歸國した汪兆銘は四月三日上海に於て蔣と會見し、共産派の抑制を實行すべき旨を約したので蔣は汪に一切を委ね、自らは更に北伐に專心する旨を明かにした。

然るに蔣と堅き約束を行つたにも拘らず、汪兆銘は共産黨の巨頭陳獨秀と會見するに及んで逆に陳に說得せられた結果、蔣との約束を破つて陳獨秀と連名を以て國共提携の共同宣言を發してしまつた。

怒髪いよ〳〵天を衝いた蔣介石は、遂に實力を以て共産黨及び共産派の掃蕩を決意し、白崇禧を上海戒嚴司令に任命して上海の實權を握つてゐた共産黨に對し、斷乎クーデターを敢行した。蔣は白崇禧をして一九二七年四月十一日から先づ共産黨の組織下に在つた勞働者の武裝解除を斷行せしめ、續いて總工會を襲撃せしめ遂に共産黨の手に依て樹立されてゐた上海臨時市政府を解散せしめる等、斯くして上海は完全に蔣介石の手に歸した。更に續いて蔣は南京に國民政府を樹立し、共産黨懲罰案を可決して徹底的に共産黨排撃の清黨運動に着手した。

蔣と共に南京政府に據つたものは國民黨の中間派と右派及び蔣介石麾下の浙江系軍閥、廣西系軍閥で、更にこれに財的援助を與へたものは浙江財閥と廣東財閥である。當時上海に資本の勢威を誇つてゐた浙江財閥は、共産黨の活動が彼等財閥の權益を危險狀態に陷れんことを恐れてゐたので、共産黨彈壓を條件として蔣介石と結んだのであつた。英國は此

の頃に至つて漸く國民革命の大勢を見透し、北方派を斷念して廣東財閥を通じて蔣の援助に乘り出し、かくて廣東政府も蔣介石の治下に歸し、蔣の勢威は四邊を拂つた。

一方共産派の據つた武漢政府は蔣の上海クーデターと南京政府樹立に對し、蔣介石の黨籍褫奪と逮捕令を發し武漢政府と南京政府の對立は日を追ふて激化した。

然るに玆に武漢政府にとつては致命的な內訌が生じた。卽ち土地革命問題を中心とする農民政策に關して陳獨秀、譚平山一派對李立三、向忠發、瞿秋伯一派との意見對立を來しその結果共産黨と結んでゐた唐生智の軍閥までが政府より離反し、更に國民黨左派も亦共産黨を見捨てゝ右傾するに至るといふ奇觀を呈した。そして一九二七年七月、共産派幹部は遂に武漢政府より退却するの餘儀なきに至り、玆に共産黨は完全に國民黨及び武漢政府とも絶緣するにいたつた。

然しながら北伐開始以前までに於ける共産黨の農民間に扶植した勢力は、其の後と雖も依然牢固たるものがあり、これを唯一の工作點として、共産黨は全力を農民の組織に向つて傾倒し湖南、湖北、江西に農民を中心とする一勢力を築いた。後にソビエット區として共産黨の地盤となつた各地は、實に此の時に培はれたのである。

一九二七年四月、共産黨は約十日間にわたつて五全大會を開き農民運動綱領を決定したが、此の時の中國共産黨中央政治局は陳獨秀、蔡和森、譚平山、張國燾、李立三、周恩來等によつて組織されてゐた。

三、國共の決裂

武漢政府から脫退した中國共産派は國民黨からは脫退せず依然黨內に留つて大衆の獲得武漢政府の幹部放逐策を私かに練つてゐたが、斯る共産派の意圖を知つた武漢政府の巨頭汪兆銘は俄然共産派に對する態度を硬化せしめ國共分離の猛運動を展開するにいたつた。

汪兆銘一派の武漢政府は宣言を發して、共産派がモスコウよりの密電に基いて農民の武裝政變を陰謀しつゝあつたことを明かにし、次いで共産黨取締令を發するに及んで玆に全

く國共兩黨は決裂分離するに至り、共産派は武漢政府からも蔣介石の南京政府からも徹底的にボイコットされるにいたつた。

共産黨を追放した武漢政府は南京政府に倣つて淸黨を行ひ、一九二七年八月十九日淸黨と黨權（國民黨の）確立とを條件として蔣介石の南京政府と合同し、南京に於て兩政府合同して四中全會を開き、共産派の譚平山、毛澤東、林祖涵、並びに國民黨極左派の鄧演達、彭澤民等十八名を除名し更に北伐の陣容を更新して、同年十二月遂に東三省の張學良を屈服せしめて玆に一應支那統一の大業を完成した。武漢政府を離れた共産黨は、程なく各地に武裝暴動を起して殆んど失敗して雌伏しつゝあつたが、深く農民の中に組織を進め、やがて國民黨及び國民政府にとつて最も怖るべき、又東洋平和にとつても憎むべき大敵として、その怪偉な姿を現はすにいたつたのである。

共産黨の暴動政策

一、共産黨の盲動と共産軍

武漢を去つた共産黨幹部は一九二七年七月末江西省南昌に集合し、折から南京政府討伐の爲め武漢政府の命に依つて南昌に派遣されてゐた張發奎麾下の賀龍、葉挺及び朱培德麾下の朱德の三軍と提携し突如南昌を占領し八月一日、李立三、張國燾、林祖涵、周恩來、彭湃等の共産黨左派を以て革命委員會を組織した。所謂南昌暴動と云はれるのがこれである。武漢政府は張發奎及び朱培德に對し南京政府討伐の鋒を轉ぜしめて共産派の暴動討伐を命じたが共産黨の革命三軍は南昌を放棄して廣東に出で潮州、汕頭を占領したが廣東軍に擊破されて廣東、福建、江西、湖南の各省に四散し、各地の農民を組織して武裝せしめ中國共産軍（紅軍）の基礎を築き上げたのであつたが、中でも最も早く最も强固に結束し

たのは朱德及び毛澤東軍であつた。

共產黨其の後の戰術は各地に潛入して勞働者農民を煽動し各地に一揆的暴動を頻發せしめるにあつた。斯くて尖銳化した共產黨の煽動は着々效を奏し一九二七年夏から秋にかけて江西、湖南、江蘇、廣東の各省に勞働者、農民に依る暴動、罷業相次いで起り、いづれも或る程度までは成功したが、元來が訓練のない勞働者、農民であつたゝめ散々な失敗を繰返すに過ぎなかつた。

然しかゝる間に早くから廣東省の海豐、陸豐方面の農民組織に着手してゐた彭湃は同年十月四日海豐縣城を占領して工農革命新政府を設立したが二週間で敗退し更に十一月折柄汕頭を放棄して此の方面に出でた賀龍、葉挺軍の援助に依つて遂に海陸豐ソビエット政府を樹立した。支那に於ける最初のソビエット區であつたが翌一九二八年二月蔣介石の第五軍のために擊破され、彭湃は上海に逃れ翌年佛租界で蔣介石の手によつて捕縛銃殺された。これに次ぐ暴動は謂はゆる廣東大暴動である。

一九二七年十月武漢から廣東に歸つた張發奎軍はクーデターを斷行して、李濟深を驅逐した。處が廣東市內の警備が手薄であつたゝめ、早くから武裝暴動によつて廣東にソビエット政權を樹立せんと計畫しつゝあつた共產黨は左翼勞働者を糾合し、同年十二月張發奎軍援助を條件として入獄中の罷業勞働者一萬二千名、共產黨員七百名を釋放せしめて武裝暴動を起し、廣東に於ける諸機關を占領して廣東ソビエット政權を樹立してしまつた。

處が事變突發と共に珠江の對岸河南島に逃れた張發奎は再び廣東奪回を企て軍を進めて奪還に成功したので、廣東ソビエット政權は三日天下で崩壞し去つた。張發奎軍の廣東奪回と共に國民軍はロシア總領事館の搜索を行ひ、此の暴動の背後にコミンテルンの指令があつた事實を認めたので、南京政府はロシアとの國交斷絕を宣言した。

二、共產黨六全大會と共產黨領袖の勢力消長

廣東暴動の後、南京政府の共產黨取締はいよ〳〵苛烈となつたので、共產黨は黨大會の

開催地を物色するにも困難を來した結果、一九二八年七月、モスコウに於いて中國共産黨六全大會及び共産青年團五全大會を開催した。

此の大會の結果に從つて、中國共産黨は爾後の方針として專ら各地方の共産軍（紅軍）の編成とその實力涵養に努め、地方的にはソビエット區の樹立運動を續けた。

此の間に於て中國共産黨成立以來、久しい間黨の指導者としての地位に在つた陳獨秀、譚平山は國共分離を機として日和見主義者と見られて、その實權を失ふにいたつたが、これに代つて事實上の指導者となつてのは李立三を中心とする周恩來、瞿秋伯、向忠發であつた。

陳獨秀一派はコミンテルンの意見に承服せず黨の政策に反對運動を續けたので、一九二九年十一月遂に黨は陳一派を除名するにいたつた。一方廣東暴動以來中國共産黨は非合法運動に入り、共産軍の組織より各地ソビエット區の樹立にいたるまでの活動は、功績から言へば李立三の政策と統帥の手腕によるものであるとされたので、自然李立三の勢力は上向した。

李立三は折柄擡頭しつゝあつた舊軍閥の反蔣運動に鑑み、直ちに全面的の武裝蜂起により中國共産黨を總動員して長沙及び武漢占領を期したのである。一九三〇年六月反蔣運動は最高潮に達し、蔣介石麾下の湖南省政府何鍵は山西軍攻撃のため軍の一部を山東に派遣し省內の警備は手薄となつたので、何鍵は第十五師長危宿鐘を剿匪總指揮として湖南省東北部の守備に任ぜしめた。然るに危宿鐘は間もなく彭德懷の共産軍と戰つて大敗するにいたり、彭德懷は三萬の共産軍を率ゐて長沙に進擊し七月廿七日遂に長沙を占領し、共産黨は李立三を主席とする長沙ソビエット政府を樹立したが、身を以て逃れた何鍵は間もなく各方面の援軍を得て長沙奪回を策し、八月五日遂に共産軍を破つて長沙を奪還長沙ソビエット政府は十日にして倒壞した。

此の長沙工作の失敗と共に李立三に對する共産黨內部に於ける攻撃は深刻化した結果、李は失脚して翌年駐露代表の一員として入露した。

蒙古及邊境の赤化過程

一、外蒙に對する赤化侵略（共産主義の矛盾）

ソビエット聯邦の對支赤化政策は一九一七年のソビエット革命成就以來、直接的、間接的たるを問はず、凡ゆる方法を以て行はれたが、その直接的なものは外蒙古に對する赤化侵略であり、間接的なものは從來述べ來つたコミンテルンの指導に基く支那共産黨を中心とする共産主義運動である。

外蒙古は完全にソビエットによつて赤化され侵蝕された。玆に於て吾等はコンミユニズム（共産主義）の一大矛盾を發見する。何となれば共産主義は帝國主義打破、侵略政策放棄を高唱したものであるに拘らず、ソビエットの外蒙古に對する領土的侵略は完全に侵略的帝國主義であり、帝政時代の露支邊境擴張政策を繼承して、大いに侵略主義を發揮し、ツ

アー（舊ロシア皇帝）時代にも見ざる大膽露骨な行動を以て、蒙古、新疆方面に侵入してソビエット勢力の扶殖に力め、今日に於ては既に外蒙古は完全にソビエット化され、更に赤化領土侵略の歩を隣接の邊境に對して進めつゝあつたからである。

ソビエットの外蒙赤化侵略の開始された當初、支那には確立した中央政權なく從つて遠く邊境の地を省みる餘裕なく、わづかに當時北京政府の黎元洪大統領時代に、對蒙軍を組織して、御役目的に赤化討伐を企てたのみであつたが、これも安直戰爭勃發によつて全く中止され、外蒙及邊境は支那政權から見離されざるを得なくなつたゝめ、ソビエットの赤化侵略の手に蹂躙されてしまつたのである。

ソビエットの外蒙古赤化侵略の起源は前述の如く一九一九年のソビエット革命完成後、翌年の一九一八年八月、モスコー政府は蒙古人民及蒙古自治政府に對して獨立を煽動した聲明を發表した時に始まる。

次いで一九二〇年の秋、ウンゲルン將軍麾下の白系露軍が外蒙古に侵入したことを好機

會として、モスコー政府はこれを討伐するとの理由に基いて外蒙に赤衛軍を派遣し、白系露軍を掃蕩するとともに、政治工作を加へて、蒙古に於ける左傾派と目せられてゐた蒙古國民黨を援助指導し、遂に赤軍の參加應援の下に、一九二一年、革命獨立を成功せしめ、蒙古國民黨をして政權を掌握せしめて同年三月十日、チヤツブを主班とした蒙古臨時革命政府が成立したのであつた。

同政府の建國綱領及び施政方針は全く共產主義に基くもので、次の通りである。

（一）封建制度を根絶する目的を以て、新らしき法律を制定施行し、特にこれがため階級の差別を問はず、全國民平等に兵役の義務及び裁判の判決に服せしむべし

（二）全國民各階級にわたり、均一納稅義務制度を設くべし

（三）奴隷制度の廢止を斷行す、

（四）小國民議會を速かに召集し、之を以て大國民會議開會迄の期間に於ける臨時立法機關とす

（五）活佛を立憲君主として推戴するも、政府はその下に在つて飽くまで民權の擴張を圖るべし。又活佛は不裁可權を有せず。政府は國民議會と共に法律を制定し、これを活佛に報告し、國民の名を以て發布す、宣戰、媾和及び豫算制定權は政府及大小國民議會に屬す

右の施政方針に基いて、小國民會議は十月廿七日に召集された。之れ實に蒙古最初の議會であつた。其の後依然蒙古の元首としてその地位を保つてゐた活佛は一九二四年五月遂に死去するや、蒙古政府は蒙古國民黨の決議に基き左の如き政令を發した結果、玆に共和國となり、ソビエットの赤化侵略の基礎は全く完成されたのであつた。

（一）活佛の印璽はこれを政府に移す

（二）共和制度を布く、但し大統領を設けず
元首權は國民大會議及び同會議に於て選擧された蒙古國民政府に於て之を執行す

（三）毎年六月六日を以て蒙古共和國建設祭日となす

（四）　活佛の年號を廢し、新たに蒙古共和國建設の年號を定む

かくして玆に全く外蒙古はソビエットに倣つた共産政權が實現するにいたり、ソビエットの思ふ坩堝に入り赤き魔手は深く差し延ばされたのであつた。

二、露蒙條約の締結

一九二四年十一月五日、ソビエットはモスコーに於て露蒙修交條約を締結して外蒙古國民政府を正式に承認した。爾來ソビエット聯邦政府は外蒙古に對し、頗る密接の關係を持し、宛ら宗主國たるが如き實情を示し、同年の外蒙古共和國憲法會議に際し、その名譽幹事として時のコミンテルン執行委員會長ジノヴィエフ、ソビエット中央執行委員會長カリニン、外務人民委員長チチエリン等が推擧された事實はソビエットと外蒙古の關係を如實に現はして居るものである。

露蒙修交取極めの內容は左の如くである。

第一條　ソビエット聯邦政府は蒙古國民政府を以て蒙古唯一の合法政府たることを承認す

第二條　蒙古國民政府はソビエット聯邦政府を以てロシア國唯一の合法政府たることを承認す

第三條　兩締約國は左の義務を負ふ

（一）　締約國の何れかの領土に於て、他の一方國に對抗し、若くはその政府の顚覆を目的とする團體及び個人の存在を許さず。同時に他の一方國に對し戰爭を目的とする軍隊に、自國民の動員又は義勇兵の募集を許さず

（二）　他の一方の締約國と直接若しくは間接に戰鬪行爲を爲しつゝある團體に對し、武器の輸入及び領土內の通過を許さず

第四條　ソビエット聯邦政府は、その全權代表を蒙古の首府に、又ゴブドー・ウリヤスクタイ、アルトイン・ブルー（恰克圖）及びその他の都市に領事を派遣す

第五條　蒙古國民政府は、其の全權代表をソビエット聯邦政府との協定に依り、露蒙國境

地方に派遣す

第六條　露蒙間の國境は、兩國政府特定の委員會に於て之を定むべし

第七條兩締約國民は、他の一方の締約國の領土に滯在し、最惠國々民としての權利を有するものとす

第八條　兩締約國の司法權は、民事に於ても刑事に於ても、その領土內に於ける一方の締約國々民に適用さるべし。但し兩國は文明と人道の原則に基き體刑を適用せず。兩締約國は刑法上の裁判及び判決の執行に當り、他の第三國に特典を與へた場合は、此の特典は自働的に他の一方の締約國々民にも適用さるゝものとす

第九條　兩締約國の他の一方より、貿易品を輸入若しくは輸出するに當り、法定の關稅を支拂ふべし。但し同關稅は他の最惠國々民より徵收する關稅を超過すべからず

第十條　ソビエット聯邦政府は蒙古國々民が、世界各國の帝國主義的侵略傾向を超越し、蒙古勞働農民大衆の文化發達に必要なる郵便、電信、交換に就いて執り來りし賢明なる

施設に贊同し、無償を以て蒙古領土內に在るロシア國所有の電信局及びその電信裝置を蒙古國政府に讓渡す

第十一條　兩國間の文化及び經濟關係の增進を計るため露蒙間の郵便電信の交換、蒙古經由の電信問題の解決を主要とし、兩國は本問題に就いて特に協定を遂ぐべし

第十二條　蒙古國民政府は、蒙古に於て土地及び建造物を所有するロシア國民に對し、最惠國々民に適用すると同樣の土地所有權、及び貸借權を與へ、ロシア國民は之に對し法定の租稅及び貸借料支拂ひの義務を負ふものとす

第十三條　本協定は露語及び蒙古語を以て二通作製し、署名の時より効力を發生す

さて斯の如くして、外蒙古を瞞着したモスコー政府は一九二四年五月の露支北京協定に依り、外蒙古が支那領であることを承認したが一九二一年の露蒙條約の實質的効力に就いては何等觸れなかつたのみでなく、一九二五年三月、時の外務人民委員チチエリンはソビエット聯邦中央委員會に於て『外蒙古は支那領土なることを認むるも、同時に外蒙古の自治

は、支那をしてその内政に干渉せしめず、且つ自から外政をも處理し得る程度の廣汎なるものであること』と、何が何だかわからぬことを述べてゐるが、チチエリンの右の如き言はソビエツトの外蒙古に對する不純の意圖が藏されてゐることが充分に看取し得られやう。

三、外蒙古及邊境ソビエツト化の實情

現在外蒙古の實質上の政治、經濟、國防の一切は完全にソビエツト政府の支配下に置かれてゐる。外蒙に於ける各官廳、各種機關はソビエツトより派遣された顧問、又は教官等によつて牛耳られてゐる。上述の如く外蒙古に於ける唯一の政黨である外蒙國民黨もモスコー政府及びコミンテルンの支援に依て成立したものであり、ソビエツト共産黨と殆んど同じ黨則及び組織を有し、殊に黨則中にはコミンテルンの指導に服從すべきことを規定されてゐる。それのみではなく、外蒙國民黨の豫備團體とされてゐる外蒙革命青年團もコムソモール（ソビエツトの共産青年團）を模倣して組織され、その綱領中にはコムソモールと提携すべきことを嚴格に規定してある。

一方軍隊もソビエツト政府の援助の下に組織編成され、武器はソビエツト側よりの供給を仰いで居り、ロシア人教官を多數召聘して、訓練に當らしめ、多數の青年をモスコーに派遣して赤衛軍式の軍事教育を受けしめてゐる。

經濟上に於ては外蒙の主要產業たる牧畜の社會化を圖り、王公、富農、寺院等の財產を沒收して、これをコルホーズ（ソビエツト式の集團經營）に移し、個人の經濟活動を封じ、事實上外蒙古の對外貿易を一手に獨占して、諸外國人に對しては堅く外蒙古の門戶を閉し、入蒙を許さぬ（玆にも吾等は共產ソビエツトの矛盾を見ることが出來る）等ソビエツト政府は外蒙古に於ける主要產業及び經濟機關をソビエツト化し全く利益の獨占を遂げつゝある。更に交通及通信に對しては、ソビエツトは外蒙當局との間に運輸に關する協定を結び、露蒙合辦のモンゴールトランスをして運輸事業を獨占せしめる一方、國內河川航行權を掌中に收め、又對外通信をして、完全にこれを其の統制下に置いてゐる。

斯の如く政治、經濟、國防の各部門にわたつて完全なるソビエット化を遂行し、更に進んで蒙古民族をして、文化及び宗教を攻撃せしめ、喇嘛の尊嚴を無視せしめることに努力しつゝある。

さて邊境赤化の情勢はどうかと見るに、綏遠、察哈爾、熱河等の內蒙古に於ても一九二三年頃から赤化の魔手を延ばしてゐたが一九二六年の郭松齡事變、一九三一年の滿洲事變、及び今回の支那事變による我軍及德王を盟主とする內蒙軍の共同進擊によつて綏遠、包頭等、內蒙の要地は全く確保された結果、ソ聯の內蒙赤化の目的は中途にして挫折を見るの已むなきに立ち至つてしまつたのである。

外蒙古に連なる新疆は一九二八年、國民政府の北伐完成に伴ひ漸次新疆に叛亂相次いで起りつゝあつたのを好機として、ソビエットは赤化工作を開始し、一九三〇年新疆に於ける回教民の叛亂擴大して、一九三三年五月回教民である甘肅の第三十六師長馬仲英を援助して張元培等と提携せしめて回教民族自決主義をスローガンとせしめ哈密に侵入せしめた。

更に回教民軍は廸化に進出、省政府を占領して新政權を樹立した。

處が新疆は英國が印度を保ち、西藏を固めるために、これより先き種々工作しつゝあつた土地であるだけに英、ソの勢力は對立の情勢を示すにいたつた。そこでソビエットは中央アジア、外蒙古を固める必要上からトルクシブ鐵道を完成して英國を壓迫するにいたり、益々回教民族自決を叫ぶ馬仲英、張元培を援助して新疆赤化政策の第一段階を完成した。其の後も更に同方面に對して赤化の重壓を加へつゝあつたが今回の支那事變勃發後ソ支兩國間に不可侵條約が締結されるや、ソ聯の對支軍事經濟的援助が積極となり露骨となると共に、ソ聯より支那への唯一の武器輸送通路として殘された新疆の政治的經濟的重要性が俄然問題化して來た。昨年十月廿一日の各新聞はソ聯機十餘臺が公然新疆の重要都市を爆撃めたこと、及びソ聯が新疆內の暴動鎭壓と稱して極東赤軍陸上部隊を侵入せしめ重要都市を占領せしめたことを大々的に報じてゐる。

右の事實は交通不便な邊境奥地の出來事ではあり、また特にソ聯が一切の通信機關を遮

斷してゐるので、今の所その詳報を知る方法がない。然し昨年十月十七日印度ボンベイに達した確實な情報に據れば過般來新疆南部の中心地和闐城に立籠つて此の地方一帶の軍事行政の實權を握つてゐた回教主モハメッド・エミール・アホンの積極的反支反ソ行動に對抗しつゝあつたソ聯側は新疆邊防督辨盛世才以下赤化した漢人部隊を極力援助して回教軍の鎭壓に狂奔してゐたが、全新疆に蜂起した回教土民軍の勢力侮るべからずとして今回積極的討伐を斷行したもので十月十五、六日前後ソ聯は飛行機十臺乃至十五臺及び赤軍をソ聯國境監視所ウシトルハン及びイルケシタムより新疆領内に侵入せしめ北部新疆の庫東、庫爾勒、英吉沙爾、南新疆の葉兒羌、葉城、皮山、和闐、喀汁噶爾の各都市に空爆を斷行した。全く無防備の各都市は莫大な被害を受け非武裝民も多數殺傷された。尙ほ赤軍は暴動の根據と目される喀汁噶爾、葉兒羌、和闐を占領したゝめ回教王エミールはカラコルム山脈を越えて印度のリー市へ避難したのである。

ソ聯の世界革命の頓挫を契機として、赤化の第一目標となつたのが蒙古、支那本土、新疆であつた。外蒙は既に完全に赤化してソ聯の掌中に在り、支那また抗日戰線の共同目的のため、國共合作の假面の下に、事實上ソ聯の魔手に操られ、今また新疆の攻略が公然敢行されつゝある。支那の領土として名目上の存在であつた新疆は、今日既に英國の勢力も消極的となり、ソ聯の政治的經濟的の勢力、支配圈内に在ることは疑ひもない。

ソ聯の積極的新疆攻略が果して奏效するか、新疆が第二の外蒙となるか、極東赤化のコミンテルン・ルートは今や新疆を通過して更に甘肅、寧夏へと延長せんとしてゐる。從つて日本の新疆に對する關心は一段と高まつて來た。かくして今後の情勢如何によつては支那事變に基く南京政府のソビエット依存主義に乘じ、ソ聯は何處まで其の魔手を延長するか測り知るべからざるもので、赤化の恐怖は支那全土を蔽はんとしてゐる。

滿洲に於ける共産運動

國際共産黨（コミンテルン）及び中國共産黨指導下に在つた滿洲共産運動は從來日滿軍警の不斷の討伐にも拘らず何等終熄の兆なく、昭和十年初め中國共産黨は滿洲臨時人民革命政府の樹立を當面の目標とし、この目的のため各地の黨、團等の擴大强化を圖ると共に反日滿民族統一を計畫した結果、全滿各地の人民革命軍を中心として、その他反日義勇軍及び朝鮮革命軍等の如き各地匪賊との合流に依る武裝遊擊運動は俄然活況を呈し、全滿各地の共産匪は今後も益々增加の趨勢を示した。一方在滿ソ聯共産黨は昭和十年三月北鐵讓渡の結果、その策動の主要根據を失ひ往時の如き勢力は無くなつたが、尙ほ北鐵從業員中一部の尖鋭分子は全滿各地に潛行して赤化運動に沒頭しつゝある形跡がある。以上の如き赤化運動の存在は最近滿洲各地に頻發した日滿攪亂を目的とした各種テロ行爲の摘發事件

がこれを裏書きしてゐる。

斯る赤化運動根絶のため昭和十年秋、日滿兩國の軍警によつて行はれた大規模の赤化勢力討伐のため、全滿に於ける共産運動は大打撃を蒙つた結果、表面的勢力は衰退を示したが、その根强い根底は容易に覆滅し得ず、諸般の情勢に照らすも、滿洲赤化運動の將來は尙ほ樂觀を許し得ないものがある。

滿洲赤化運動の策源地はハルピンに在るもの如くコミンテルン及中國共産黨よりの指導を受けた滿洲省委員會がハルピンを全滿洲共産運動の中心地としてゐる模樣である。

一、東滿地方

間島を中心とする東滿地方は從來全滿洲に於て赤化狀態の最も惡化した地方であり、同地方に於ける共産運動の中心的主導機關である滿洲省委員會隷下の東滿特別委員會は同地方に於ける各下級組織機關を指導して黨勢を統轄すると共にその武裝勢力たる東北人民革

命軍を指導し、その特意な遊撃運動に依つて黨勢擴大、赤化激成を策して殊更に對岸の北鮮地方の赤化を企圖する等、積極的活動を行ひ日滿兩國軍警に依つて行はれる屢次の檢擧討伐にも屈せず、その間隙を縫つて頑強な活動抵抗を續ける一方ソ聯沿海洲方面との地理的接近に依つて同方面より働きかける赤化の魔手と相俟つて相當な効果を擧げてゐる。

右は昭和九年末以來琿春、間島地方に於けるソ聯派遣の鮮人密偵檢擧事件に徴して明らかなことで、翌十年三月北鐵接收に依る北滿地方の情勢一變に伴つて東滿地方の共産運動は、彼等にとつては一段と重要性を增し來つた。卽ち昭和十年初頭以來滿洲省委員會は東滿特別委員會に對し數次にわたつて東滿地方の赤化激成に關する各種工作指令を發した結果、同年五月一日のメーデー前後にわたつて東滿各地に於ける列車襲撃事件、村落都市襲撃事件の頻發を見たが、上記の如く同年秋日滿軍警に依る組織的檢擧討伐によつて勘からぬ打撃を受け、中樞機關たる東滿特別委員會の幹部の一部は逮捕されて、その根據地を追はれて苦境に陷り活動も衰へた模樣である。然しながらウラヂオストックのコミンテルン方面よりの不斷の策謀は容易に彈壓し得ぬため、今後共東滿地方の潜行的赤化運動は繼續されるものと考へられる。

(1) 東滿特別委員會の活動

昭和九年十月以來東滿特別委員會は延吉縣、三道崴、能芝營に移動して黨、團及び滿洲省委員會より派遣された魏某、李某等指揮の下に黨工作の檢討を行ひ、從來の工作變更に當ると共に、從來黨內に於てその行動に疑ひをかけつゝあつた鮮人分子の追出策を行ひ、その結果琿春縣委員崔學喆以下重要幹部約六十名を殺害する等の清黨工作慘烈を極めた。

これがため身邊に危險を感じた東滿特別委員會幹部李相默は昭和十年一月に、又革命軍首領朱鎭は二月七日頃共に脫走して、我方の官憲に逮捕されたので日滿軍警の討伐を恐れた東滿特別委員會は同年二月十四日前後、上記の滿洲省委員會派遣の巡視員以下重要委員と共に急遽三道崴、能芝營の根據地を引揚げて延吉縣大荒崴奥地に移動した。これよりさ

き滿洲省委員會は二月一日付を以て東滿特別委員會に宛て、『東滿に與ふる指示信』を發し政治、宗教、種族の派別なく一般群衆の糾合を謀り、一大反日統一戰線結成方を指示した。之に基き東滿特別委員會の重要幹部二十六名は二月廿四日より三月三日に至る九日間その新據地である大荒崴奥地に於て魏極民司令の下に黨、團、東滿特別委員會聯席大會を催し一九三三年以降に於ける東滿特別委員會の工作執行振りを批判檢討し、今後に於ける各種新工作方法を議決すると共に東滿特別委員會の重要幹部の更迭を行つた結果、魏極民（滿人）は特別委員會責任者に、また李光林（鮮人）は組織部責任者に、前記李某は宣傳部責任者にそれ〳〵就任した。

右の結果、東滿特別委員會は同年九月十八日の滿洲事變記念日までに黨、團員、人民革命軍、青年義勇軍の大々的增員計畫（但し全員の中八割は中國人たるべきこと）を樹立したのであつたが、間もなく魏極民以下幹部一同は、再び日滿軍警の來襲を恐れて同年三月十一日頃大荒崴奥地より汪清縣腰營溝奥地に移動し、同地に於て黨勢擴大に努めつゝあつたが急追し來つた日滿軍警のため二回にわたつて討伐を受けたゝめ、更に四月廿三日同地を距る東北方四里の雞冠摺子唐水河子地方の山林地帶に移動した。其の後も執拗に反滿抗日を標榜して黨勢の擴大强化を圖りつゝ、重要黨員は東滿各地の重要都市に潛入して共產運動に對する指導を行ひつゝ之により日滿軍警の後方を攪亂しやうと企圖し、一方特別委員會の南下方策に基き、敦化縣城付近に安敦和中心縣委員會を組織して同方面に於ける赤化運動の據地とした。

同年八月に至るや、東滿特別委員會は滿洲省委員會よりの指令を接受するや直ちに隷下各級黨部及革命軍中より滿鮮人優秀分子數十名を選拔して種々工作を劃策中であつたが、八月中旬滿洲國軍の討伐進捗に脅威を感じて唐水河子を引拂ひ、かねて根據地として準備工作を施しつゝあつた汪清縣羅子溝三道河子方面へ、また〳〵移動した上討伐の効果を減殺せしめるため黨員の分散潛行方法を執り、一部重要幹部は同地方より一般民衆地區内に潛入する等、滿洲國軍警の討伐回避に苦心しつゝあつたが軍警の追擊益々急を告げたの

で、更に同根據地を捨てゝ人民革命軍第三團長方振聲部隊と相携へ九月中旬汪清縣小汪清奥地へ移り、その後も尙ほ軍警の鋭鋒を避けて汪清縣不頭河子、火燒綿等の各地を轉々としつゝあつた時、恰もその時日滿軍警の大規模な特別治安工作に基く剿匪計畫があることを豫知したので、同特別委員會は更に北方に逃避し九月下旬早くも寧安縣下に移動し、爾來同地方に於て討伐の鋭鋒を避けつゝ黨の勢力挽回を策した。卽ち先づ軍事會議を開いて

（イ）日滿軍の討伐に對する對策

（ロ）親日滿洲國要人の暗殺隊派遣に依る後方攪亂

（ハ）滿洲に於ける國道工事の妨害

等に關する決議を行ひ、日滿兩軍の討伐によつて破壞された東滿地方に於ける細胞機關の再組織を企圖するため七名の工作員を各都市部落に派遣したといふが、其の後同特別委員會幹部は、將來の工作の中心を都市及鐵道沿線各部落に置く方針の下に進んだ。

(2) 東北人民革命軍第二軍の暗躍

東滿特別委員會の指導下に在つて東滿一帶の遊擊運動の主體を形成してゐた東北人民革命軍第二軍は、從來王德泰軍長の下に第一獨立師長王德泰（軍長兼任）及第二獨立師長方振聲の二個師を有してゐたが、昭和十年夏更に史忠恒を長とした第三獨立師の成立を見た。

而して第一獨立師は主として延吉、和龍、安圖、敦化地方を、又第二獨立師は汪琿兩縣を行動區域とし、それ〴〵京圖線及圖寧線の襲擊を目論みつゝ同地方の兵匪を懷柔し南滿東邊道地方の東北人民革命軍第一軍及び北方密山方面の同第四軍、綏寧地方の同第五軍と連絡を執りつゝ同特別委員會指導下に各地交通機關及軍需機關の破壞、村落都市の襲擊等の赤色遊擊テロ工作に出でたが、殊に昭和十年五月二日第二軍第一獨立師配下の共匪及兵匪の合作に依る京圖線哈爾巴嶺に於ける國際列車襲擊事件は日滿側に多大の損害と脅威を與へた。第二軍は第二獨立師同年九月廿三日未明再び京圖線の列車を二道河及び黃松甸間

赤色支那

に於て襲撃した。

二、南滿地方

南滿東邊道一帶に於ける共產運動の中心指導機關は滿洲省委員會隷下の南滿特別委員會及び通化、磐石兩中心縣委員會等である。これ等は楊靖宇指揮の東北人民革命軍第一軍の武裝遊擊運動を激化せしめる一方、日滿軍警による屢次の討伐にも拘らず頑強な活動を繼續してゐたが、就中人民革命軍第一軍は同地方の中心的武裝勢力として、各地の反滿抗日匪及朝鮮民族派唯一の殘黨朝鮮革命黨を糾合して活潑な運動を各地に展開し、西安、東豐等の奉吉線以西の地方へも進出を企て、直接滿鐵沿線及び首都新京に脅威を與へ更に一方鮮內赤化を目標として對岸北鮮地方へもその勢力伸張を企圖したもので、その潛行力は侮り難いものがあり、東滿間琿地方の共產運動と共に南滿共產運動の今後の發展成行きは嚴重警戒を要するものである。

東北人民革命軍第一軍の暗躍

南滿一帶の主要武裝赤化勢力たる東北人民革命軍第一軍は楊靖宇を軍長とし、南滿特別委員會の指導下に第一及第二獨立師を有し、李紅光指揮下の第一獨立師は通化、興京、柳河等主として東邊道南部地方を、又曹國安指揮下の第二獨立師は輝南、濛江、磐石地方を各勢力範圍として反日滿民族統一政策による各種兵匪及び朝鮮革命軍との合作聯携を策して南滿一帶の赤化運動に狂奔し、一方東滿の人民革命軍第二軍とも連絡を計つてゐたが第一獨立師は東邊道南部より本溪縣を經て所謂三角地帶及び撫順、鐵嶺縣方面へ、又第二獨立師は撫順、樺甸縣を經て安圖、敦化方面乃至磐石地方或ひは更に奉吉線以西の西安、東豐方面へそれ〳〵進出せんと企圖し昭和十年夏西安、東豐地方に入り込んだことは同地方に第二獨立師の名に依る赤化宣傳文が撒布せられた事實によつて裏書される。所謂三角地帶乃至撫順、西安方面への進出は直接滿鐵沿線の治安を脅かすのみならず新京を窺ひ日滿

側の後方攪亂を試みんとする大膽な遺り口で、現在の處日滿兩軍警のため彈壓されつゝあるが、彼等の對鮮赤化運動と共に今後共充分警戒を要するところである。

三、北滿地方

東滿及南滿と共に滿洲共產運動の主要發展地區たる北滿哈東、吉東、密饒一帶の共產黨部は從來滿洲省委員會隷下の吉東局の指導下に活動し、殊に曾て哈東珠河方面を地盤とした鮮人共產黨の歷史的影響及び北鐵賓綏沿線方面に於ける東滿ソ聯共產黨の赤化策謀等によつて、これ等北滿各地の運動は强烈となり日滿軍警の討伐の間隙に乘じて執拗な根底を築き上げた。

昭和十年一月珠河の共產勢力は同方面を根據とした赤色遊擊隊その他の武裝勢力を趙尙志統率の下に糾合して、從來の南滿の東北人民革命軍第一軍及東滿の同第二軍に次ぐ革命軍第三軍を編成組織し、次いで同じく密饒方面には人民革命軍と同質の東北抗日同盟軍第四軍を、更に寧安方面には同じく東北抗日聯合軍第五軍の成立を見、各軍はそれ〴〵哈東、密饒、古東各遊擊區を形成して東滿及南滿の革命軍とも連絡を保ちつゝ北滿一帶の赤化勢力に努め、海倫、扶余、熱河方面にも進出を試みた。

四、ソ聯邦共產黨及び國際工作班の對滿活動

在滿ソ聯共產黨はソ聯邦極東邊境委員會隷下の北滿洲委員會指導の下に北鐵及び在滿各外交機關等を根幹として暗躍を續けてゐたが、昭和十年三月北鐵讓渡の結果大打擊を蒙り、黨勢頓に衰微した。然しながらソ聯共產黨は、在ハルピン總領事館を始め在滿各地の外交及び通商機關を通じ北鐵讓渡後の事態拾收に努め、先づ領事館內に於ては館員の增加に依る對滿赤化陣容の擴充を計る一方、北鐵從業員中尖銳の分子を滿洲內に留めて日滿側の嚴重な警戒取締りを避けて地下深く潛り、中國共產黨滿洲省委員會との聯携を策しつゝ各地の細胞組織の扶植擴大及び各種共匪の懷柔指導に努める等、從來の滿洲赤化工作の再建强

化に焦り凡ゆる暗躍を續けた。

一方外部よりするソ聯共産黨の對滿策謀は沿海州方面にける反日滿不平分子たる滿鮮人の操縱となつて現はれ、各種陰謀遂行に當らしめ右滿鮮人を隨時東部ソ聯國境より密かに入滿せしめて黨勢力の擴大强化を謀りつゝあり、一方滿洲里及び齊々哈爾方面に於ても活動を行ひ、昭和十年十月奉天兵工廠及び飛行場等の爆破陰謀を廻らしたが遂に暴露する等の事實があり、背後にはソ聯外交機關の暗躍のあつたことも歷然たるものがある。これ等ソ聯共産黨の對滿赤化の魔手は今後と雖も容易に斷ち難きものがあり、此の點特に愼重に警戒すべきであらうと考へられる。之を要するに從來行はれ來つた全滿各地の赤化運動は日滿官憲の水も洩さぬ壓迫のため衰微の一途を辿つて來たが、今次の支那事變と共にわが國の關心が北支方面に集中されればされる程、滿洲に對する警戒は十分ならざる時機を利用して、再び組織の擴大を地下に於て計畫するやも知れぬ危險性も多分に存在して居り、絕對に油斷を許さぬ情況に置かれてゐる點に注意すべきである。

華北地方に於ける共産運動

華北地方に於ける共産運動は河北省を中心とし中國共産黨河北省委員會、北京及天津兩市委員會等が主導機關となつて、同方面の赤化工作に從事して來たが、官憲の取締り、及び國民黨特務機關、憲兵第三團等の彈壓嚴重であつたゝめ、その活動は振はず、わづかに地下運動を續ける狀態であつた。所が昭和十年夏、中央紅軍の大擧西北方面移動の結果、これに呼應して華北共産黨は秘かに蠢動を始め國民黨諸機關が華北より撤退してその活動を停止した際、共産黨側は黨勢恢復の絕好機會とし、北支民衆の排日氣運を利用して抗日反帝國主義運動を標榜した民衆統一運動を起し、一方コミンテルンも北支の情勢重大化と共に暗躍を開始し、華北共産黨に宛てゝしば〳〵指令を發し或ひは秘密會議を開く等その躍動は極めて活潑となり、殊に河北省南部地方に於ては紅槍會等の各種團體匪と連絡して

共産軍及びソビエット區の組織擴張に努め部分的成功を收めたのであつた。

一、共産黨は北支に於てどんな活躍をしたか

北支に於ける共産運動の輪廓は前述の如くであるが、中國共産黨河北省委員會及北京、天津兩市委員會等はコミンテルン及び中國共産黨中央執行委員會の指令を受ける外、屢次會合して種々協議を行ひ採決等を行つてゐたが、就中抗日民衆統一運動の激化及ソビエット區及北支に於ける共産軍の組織に力を用ひたことで、以上の如き共産黨の會合決議及指令等の內容を見ると、凡そ誇大に過ぎて實現性に乏しいことが多いが、左に比較的重要な會合及決議、指令その他を列記することに依て支那共産黨が北支に於てどんな活躍を行ひつゝあつたかを窺ふことにしやう。

（イ）華北代表大會（昭和十年二月三日）

天津佛租界に於て中國共産黨華北代表大會を開催し、中央委員秦邦憲これに參加したが右代表大會に於ては工人組織、工農武裝組織、青年運動擴大等に關する華北及西北工作を決議した。

（ロ）工作加緊準備會

國民黨の北支に於ける活動停止に際し、華北中國共産黨の擴大を謀らうとして、勞工赤化運動の積極的準備を命じた中國共産黨中央執行委員會の指令に基いて天津市委員會は昭和十年六月十二日、河北省北寧公園に於て各關係所屬重要委員を招集し、國民黨の華北撤退狀況及北支共産黨の今後の對策を決議した。

（ハ）中國共産黨一九三六年第二次工作大綱

昭和十年夏、モスコーに於て開かれたコミンテルン第七回大會の第二次會議を通過した一九三六年中國本部國際路線實現後に於ける第二次工作大綱は、同年九月四日支那共産黨中央政治局より河北省委員會及天津市委員會に傳達せられたが右大綱は華北、西北、華中、內蒙古、及び東北の五項に區分されて居り、その中華北に對する工作は、

（1）軍事組織の擴大
（2）反帝國主義運動の擴大强化
（3）××××××運動
（4）鐵道工人運動の健全組織
（5）華北沿海船員海員運動
（6）碼頭勞働工會の組織
（7）暴動綱領に準據革命政治運動の樹立

の七項目を包含してゐる。

（ニ）天津市委員會會議

天津市委員會は昭和十年九月廿四日、同市委員會委員張貴祥主宰の下に討論會を催し、市委員會の組織擴大その他に關して協議したが、同會に於て張貴祥の行つた華北工作狀況報告演說中『華北に於ける黨の工作は既に最高潮に到達したが、近く北平に一つの中央指導中心機關を組織するか、或ひは共產黨中央政治局を天津に移して華北工作の全指導に任じ、その積極化を目論見つゝある』と言つてゐるのは注目される。

（ホ）華北各省市代表大會（同年十月十八日）

華北各省市黨部はコミンテルン第七回大會の決議案に基く華北工作を積極的に具體化する目的を以て、十月十八日北京のソ聯大使館内に於てコミンテルン駐支代表華北指導員ミトウスチフ指導の下に華北各省市代表大會を開催したが、同會に於ては先づ大會主席周學余は蔣介石が中國共產黨に屈服し華北各省を共產黨に提供し來つたのであるから、今や華北各地に於ける支那共產黨の活動は半公開的となり、共產黨は此の半公開的狀況の下に工作を行ふべきである旨の演說をなし、次いでミトウスチフは日本の重壓に堪え兼ねて蔣介石はソビエット聯邦に救を求めて來た結果、華北及西北地方に關し双方の妥協が成立したのであるが、目前の工作中心地は華北に在るから同地方の軍事、及工農運動激化を强調すべきであるとの趣旨の演說を試みた後、同會は滿場一致反滿抗日の具體的方針を決定し

た。

（ヘ）華北に於ける積極的補充辦法

同年十月廿日付河北省委員會は天津市委員會に對し河北省及北京、天津兩市の青年團各級機關の統一合作運動及津浦、京漢、平綏、北寧各鐵道從業員に對する赤色勞働工作を命ずる積極的活動補充辦法を指令した。

（ト）華北緊急工作綱領

同年十二月一日中國共產黨中央政治局は華北各級黨、團、機關に對し華北地方赤化運動激化に關する華北緊急工作綱領を發したが、右綱領には華北に於ける土地革命の實現、ソビエット政權の樹立の促進を圖るを急務とし、これがため煽動工作、破壞工作、諜報工作等各種の赤化工作を詳細に指示してある。

（チ）華北軍事委員會

同年十二月七日、中國共產黨中央軍事委員會は雷季春、張志仁、趙書元、任述光、彭德

會の五名を華北軍事委員に任命し、又ソ聯極東軍司令官ガロン（ブリツヘル）はロレスチ、ヂスチフ、ノサコモフ、ポトココフの四參謀を極東軍高級參謀に任命したが、これ等九名は十二月十八日、天津に潛入して華北國際軍事委員會の組織に着手した結果、廿日その成立を宣言し委員長に任述光、副委員長兼參謀部長にロレスチが就任し、本部を天津に、接洽處を北京ソ聯大使館內に設けたと傳へられる。而して右委員會は華北各軍內に士兵委員會を設けて士兵工作を激化せしめ、華北共產軍の組織を擴大强化すべく意圖すると共に機を見て抗日標榜に依る大暴動を起して一氣に華北赤化を企て、その他學生、勞働者を吸收して軍事訓練を施さんとする計畫を樹てつゝあつた。

日本に於ける中國共産黨の活動

一、日本に於ける中國共産黨の生長發展

我國に於ける中國共産黨の活躍は、留日支那人學生を基本的闘争主體とし、これら學生層の溫床に生長發展を遂げた。而も地域的にこの魔手は三千餘人の留日學生が居住する帝都へと伸ばされたことは強ち不自然ではなかつた。

卽ち昭和四年秋、警視廳外事課の手に檢擧された、東京帝大生鄭曙を首魁とする一味百廿九名の、中國共産黨日本特別支部事件を發端として、次いで『華僑班』事件、帝都の眞中で堂々抗日新聞を發行してゐた「留東新聞」事件、中國文藝協會員事件等々と嚴重な監視彈壓を潜り、後から後からと檢擧され多數の國外追放者を出したにも拘らず、中國共産黨を貯水地とする雜多なる外廓團體を結成、單なる左翼から惡性の抗日左翼へ而して純然たる抗日へと變遷の歷史を辿りつゝ、日支事變の直前まで執拗な闘争が續けられ、にくむ

べき赤化の魔手を擴げてゐた。

中國共産黨日本特別支部の結成

昭和二年十月ごろ左翼理論に興味を持つた在京の一部支那人留學生が『社會科學研究會』と稱する小團體を作り、左翼理論の研究を始めた。當時我國では同年七月コミンテルンの日本問題特別委員會で決議せられた、所謂七月テーゼ（又は二七テーゼ）が左翼論壇を賑はし、福本イズムのセクト的精神が修正され、日本共産黨に新しき局面が展開しつゝあつた左翼華やかなりし頃だつた。こうした國內空氣が彼等の主義研究に拍車をかけたことも決して不思議ではなかつた。

(1) 結黨協議會（第一回代表大會）と綱領

果然彼等のうちの左翼分子は、理論のみに慊たらず實行運動を企圖し、昭和三年八月下旬帝大生鄭嚮、日大生廖以仁、鐵道教習所生史謙ほか數名が中心となり一種の秘密結社を

結成した。未だ一定の名稱、組織を持たなかつたが、同志の獲得、主義の宣傳に努めつゝ着々と中國共産黨支部結成へと準備を進めてゐた。果して同月末、第一次代表大會と認められる結黨協議會が荏原區碑衾町大岡山の某所でひそかに開催された、集つたものは鄭嚮。何德溫、五哲明、史謙、張若龍、廖以仁、五慈慕、ほか二名だつた。

當日の會議は鄭嚮が議長となり、まづ中國共産黨日本支部の卽時設立の必要を力說したに對し萬場一致で可決。スローガンとして、

一、打倒××××主義
一、打倒中國々民黨
一、對支非干涉
一、全世界殖民地方の解放
一、ソビエット政權の確立
一、ソビエット革命の準備
一、××××××反對

一、全勞苦民衆の××××の準備
一、××××××
等々の十六綱領を決定。ついで運動方法の協議に入り、
1、中國共產黨と速かに連絡をとり鄭曙が連絡責任者となる
2、機關紙『學校生活』を發行し各記念日に黨の名で宣言を發表する
3、黨より社會科學研究會その他の團體に責任者を派遣して工作する
その他を決定したのち鄭曙が書記、史謙が組織、廖以が宣傳とそれ〳〵責任者の選擧を行ひ、こゝに『中國共產黨日本特別支部』(日本特支と略稱)は事實上の結成を見たのである。而して吾々の留意に値する點は、その名稱と綱領である。卽ち特支は單なる中國共產黨と連絡あるのみならず日本共產黨との連絡は勿論、國際約性質を帶びた日本に於ける社會秩序攪亂の役割をも含む—後年抗日左翼へと意識的な鬪爭を展開するに至つた—鬪爭形態を整へてゐた點である。

(2) 黨の組織及び非黨團體

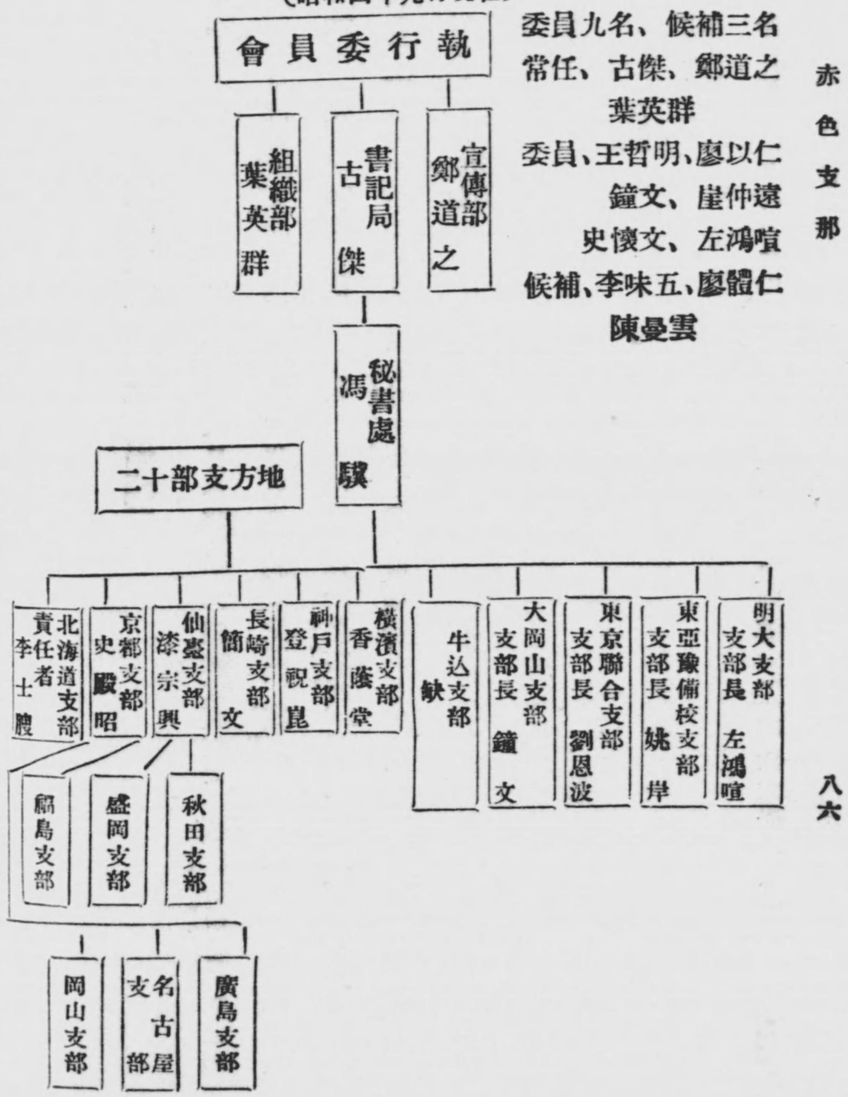
昭和四年十月三日檢擧當時に於ける『日本特支』の組織は東京には執行委員會の下に明大支部、東京豫備校支部、大岡山支部、牛込支部の五支部、黨員八十名があり、地方には仙臺、秋田、盛岡、福島、横濱、神戸、京都、廣島、名古屋、岡山、長崎、北海道十二支部黨員各二十數名を有し、ほかに直接指導下の非黨團體としては、

A、社會科學研究會
B、藝術聯盟
C、人社
D、時代工程社
E、反帝同盟

等の非合法組織を持ちその影響下には更に『廣東同鄉會』『明治大學同窓會』『法政大學

中國共産黨日本特別支部組織

（昭和四年九月現在）



委員九名、候補三名
常任、古傑、鄭道之、葉英群
委員、王哲明、廖以仁、崖仲遠、鐘文、史懷文、左鴻暄、廖體仁、五味李、候補、陳曼雲

同窓會』、『高工同窓會』等と大掛りな縦横の團體を持つてゐた。

(3) 黨員の獲得と入黨手續

黨員の獲得には黨の指導下にあるフラクションを形成する、黨の外廓團體より黨の幹部が自由に操縱し來つた『中華留日社會科學研究會』『中華留日反帝同盟』『藝術聯盟』『時代工程社』並に『人社』等に加盟せるもの〻うちから優秀な者を黨員に引抜いた。

入黨手續としては（イ）黨員一名以上の紹介者あるを要し紹介者が責任をもつて人物を相當期間考査する（ロ）紹介者は支部會に提案し入黨の可否を諮り支書（支部長）が直接考査してのち本人に通知すると共に組織部に報告（ハ）縱來國民黨又は他の國家主義團體に加入した者は豫め組織部に報告し執行委員會の調査決定を待つて許可せられた場合に支部長より通知す（ニ）既に本國に於いて黨員たりし者は所屬黨支部の紹介を持參

直ちに入黨する。

この入黨證は全々發行せず、口頭で通知し又は支部内小組會（細胞）に出席し、組員に紹介する程度で時には簡單な手紙文で『入校』を許すと通知する場合があつた。

二、特支の活動狀況

(1) 宣傳と會合

既に意識的な鬪爭組織形態を備ふるに至つた彼等は果敢な鬪爭を開始し、第一回代表者大會の決議に基づいて、機關紙『學校生活』の發行準備に着手、同年十月革命紀念號としてその第一期を刊行し、同志は勿論のこと各自の學友間にまで頒布した。ついで十二月十一日には『驥東暴動一周年紀念日について』と題する宣言を『中共日本特委執行委員會』の名で印刷、大岡山、本鄕、池袋等の電柱その他に貼出すと共に廣く一般に頒布したのを

始め、翌四年一月には『レーニン、リーブクネヒト』五十周年紀念ビラ、同年二月七日には『二・七』六周年紀念ビラ、同月九日に『××××××××』のアヂビラを頒布した。一方同年一月から三月に亙つて黨員のみには『市委』の署名で『政治宣傳資料』と題するパンフレットを頒布、一月及び二月十五日には宣傳用の機關紙として『火花』第一期及び第二期を刊行、これは黨員並びに一般にも配布した。その間着々と支部の結成に狂奔し中央及び支部を通じ一週に一回乃至數回の執行委員會、常務委員會、支部長聯席會議等を開催してゐた。

かくして同年四月上旬、杉並區阿佐谷陳啓宇方に於いて第二次代表者大會を開催、出席者三十名といふ多數を見るに至つた。この席上、

一、中國共產黨との聯絡を更に緊密にすること

二、各地支部を增設連絡すること

三、各地に社會科學研究會の組織をつくりこれが宣傳大綱を決定

四、執行委員の增員
その他を協議決定した。

次いで同年四月末には『學校生活』第三期四月特別號を發行して第二次代表大會の協議事項を揭載・各黨員に配布。五月には更に『火花』の五月特別號を配布したが、この活潑な活動の反面黨員の增加に伴つて內部の勢力爭ひが起り、遂に機關紙編輯問題及び支部の組織問題で幹部間に意見の相違を來しその內紛が爆發するに至つた。

第三次代表大會はこの幹部內紛問題解決のため同年七月七日から五日間、杉並區馬橋三二鄭標方その他で黨員約二十名が集合して開催されたものである。この會合の討議事項中で注目に價するものは、始めて日本共產黨、並に左翼團體との連絡問題が論議されたことで、結局問題が重大なため意見の一致を見なかつた。その他本結社の名稱につき從來はまちく〳〵であつたものを『中國共產黨日本特別支部』と決定。今後は必ずこの署名によることゝなつた。內紛問題についても事情が複雜なため議論百出の形で纏らず、結局一括して中國共產黨中央部に一切を報告してその指揮を仰ぐことゝなり、役員の改選を行つた結果執行委員（九名）〔內常務三名〕

常務　古傑（書記）　鄭道之（宣傳）　葉英群（組織）　の三名のほか
王哲明・廖以仁・崔仲遠・鐘文・史懷文・左鴻宣
秘書　馮騏
候補委員　李味五・廖體仁・陳最雲
と決定した。

三、中國共產黨中央部の指令と黨員梅電龍の日本潛入

(1) 中央部の指令

『日本特支』からの報告に接した中國共產黨中央部では種々協議の結果、日本共產黨と中國共產黨中央部の指令と黨員梅電龍の日本潛入　九一

の連絡問題に關しては、

『共産インターナショナル組織の原則によれば共産黨員たるものは、皆所在地の黨の組織に加入すべし。然れども日本の黨は目下重大なる破壞を蒙れるを以つて、今直ちに入黨のこと計り難し。中央は適當の時機に於いて諸君を日本共産黨に參加する樣紹介の法を講ずべし』

と述べ、更に『特支』の任務に及び、

『あらゆる方法手段を以つて、日本帝國主義の××××××反抗する運動を起し、特に大衆行動の發動と大衆組織に注意し、先づ反帝同盟の組織を起し大衆を吸收、これを半公開的に活動せしめ日本の中國侵略事件の度毎にこの名義をもつて宣傳運動をするべく、現在××××××、××××××、××××××等につき宣傳ビラを撒布して大衆會議を召集、もつて一大示威運動に移るべし』

等その他重大なる指令を與へた。而して所謂幹部內紛問題解決のためには、中央黨員梅電龍を上海から派遣する旨の通告があつた。

(2) 中心工作の設定

中央部からの重大指令は、俄然『日本特支』に明確な方向を與へ、黨員に活氣を注入した。卽ち彼等は、中央部の指令に基いて當面の中心工作として1・反帝同盟、2・思想鬪爭、3・工人運動の三大綱を設定した。

1、反帝同盟、秘密結社反帝、大同盟を結成し、左傾大衆を基礎とする定期刊行物を出版、帝國主義の陰謀と罪惡を暴露し煽動し、殊に帝國主義のソビエット聯邦攻略、中國革命民衆壓迫の事實によつて大衆の鬪爭精神を皷吹激成する

2、思想鬪爭、社會科學運動に留意し社研運動を公開し講演會、辯論會を開催し、機關紙その他の刊行物によつて廣大なる群衆を糾合しこれに參加させる。帝國主義統治を覆し私有財產制度の撤廢、プロレタリア獨裁を獲得すること、卽ち第三インターナシ

ヨナルの理想の實現を期する

3、工人運動、横濱を中心に同志を集め青年團體を組織し廣大な工人群衆の參加を吸收

横濱に『黎明社』を組織し『平民學校』を建設し東京は『華僑學校』に黨員を派し成年工人の補習班を開き宣傳を擴大する

(3) 梅電龍の入京

同年八月初旬中國共産黨中央黨員梅電龍は中央部の命により、重大使命を携へて、僞名して日本警察當局の嚴重警戒の眼を晦し神戸から巧みに日本潜入に成功、上京して直ちに黨員廖體仁方に入つた。これよりさき梅電龍は日本渡來に際し、日本共産黨員田中某に對し佐野學が上海に於いて逮捕せられた旨の報告及び日本に於ける革命運動犧牲者の家族救濟資金二千圓の交付方を委任せられてゐた。天網疎にして洩らさず、この重大任務が蹉跌となりやがては『日本特支』總檢擧の端緒とならうとは彼等は夢にも知らなかつた。

卽ち入京に成功した梅電龍は『日本特支』の幹部内紛問題の解決に奔走するほか、幹部黨員らと會合し中國共産黨中央部からの指令を披露說明す等活躍してゐたが、一方中央部幹部から委任を受けた件につき、早速、日本共産黨員田中某のアドレスをつきとめんと外出上野公園附近をうろついてゐた際、かねて手配中の警視廳外事課員の手で難なく檢擧せられた。

もしも梅電龍が逮捕を免れ、日本渡來の目的を遂げたとしたら『日本特支』は中國共産黨中央部との連絡を作り恐るべき發展を遂げたことは勿論、三・一五及び四・一六の全國的檢擧により潰滅に瀕した日本共産黨の後をうけた田中清玄一派の再建共産黨との連絡に成功し、より大なる禍根を將來に殘したであらう。

次に記述の順として第三次代表大會以後屢々開催された執行委員會及び常務會等の主要討議決定事項を簡單に述べれば左の如くであつた。

A、『八・一』赤色デーの宣言及び宣傳大綱を決定

B、社會科學研究會に於いては留日各團體代表大會を開き『八・一』の意義を宣明
C、反帝同盟を組織、印刷物を發行し帝國主義並に世界大戰反對の宣傳を擴大
D、東支鐵道問題に關し中央より指令に基いて宣傳品送付されたゝめ九月一日黨員並に
　黨員外の中國留學生を動員し、中國公使館に對する示威運動を決行
E、九月四日前記のデモを變更し銀座に街頭デモを敢行することゝし、これは日支共同
　でなし支那側人員約百名、當日實行上の各隊組織を協議し五人を一隊としてうち隊長
　一名が領導
F、社研に對する活動擔當者を李士腰外二名とする
G、九月四日銀座の街頭デモで逮捕せられた黨員並に同志の救出方法並に狀況報告
H、藝術聯盟に對するリーダーを炳文とす
I、梅電龍の檢擧せられた狀況を中央に報告し更に代表派遣方を申請
J、中國共產黨よりの指命に基き各英豪、外一名の調査を黨員劉之涯が行ふ
K、双十節國慶記念日宣言と宣傳大綱の決定
L、十一月一日より十月十日までを軍閥戰爭反對の宣傳週間とし一切の青年團體より宣
　言を發表すること。

四、黨外活動の概況

『日本特支』の指導を受けその外廓團體として活動したものは『社會科學研究會』『藝術聯盟』『時代工程社』『人社』『中華留日反帝同盟』の五團體でその活動概況は左の通りである。

(一)　社會科學研究會

昭和二年十月ごろから鄭曙（帝大生）陳其昌、黃利英、鄭漢先（以上何れも日大生）等が中心となり、社會科學研究を始め、三年四月ごろより黨の積極的指導下において

宣傳に沒頭した、會員は五十數名でうち黨員は二十七名。機關紙には『海外青年』『五化』を發行

(二)　藝術聯盟（中國青年藝術聯盟）

昭和四年三月東京美術研究會に屬する王道源、許達、李白華、沈起予、沈學、余炳等が神田日華學會に集合して、東京美術研究會を藝術聯盟と改稱し、その發會式當時には秋田雨雀、村山知義、藤森成吉等を來賓として會員二十五名、うち黨員は九名だつた。『プロレタリア藝術運動の完成と國際プロレタリア藝術戰線の統一を期す』といふのがスローガンだつた。

(三)　時代工程社

昭和四年五月揚大朝（大岡山日語學校生）の提唱で同人が集り社會科學研究會を開催し、六月廿六日に中野區明大生江裕基方で會合を持ち『無產階級の革命遂行に同情し、これを幇助する』と目的を表明し發會したが、九月二十四日解消して社研に合併した。

(四)　人　社

學校運動に注意し、三民主義反對教育を唱へ、學校の經營を企圖し群衆の指導教養をなし、左翼幹部の養成を目的とした社員は約五十名だつた。

(五)　中華留日反帝同盟

昭和四年七月二十二日『日本特支』は中國共產黨中央部の指令にもとづいて、黨外團體を聯絡提携せしめて反帝同盟を組織せしめることを決定したゝめ廖體仁、房斌がこの組織に當つた、まづ同月廿九日反帝成立宣言書を發表、八月一日紀念宣言書を發表し、機關紙『反帝戰線』を二回に亙つて發刊、八月廿三日には反帝第二回代表者會を開催し、その決議として、

1、東支鐵道を露國に返還させる示威運動を九月一日を期して日本人側と共同して行ひ支那公使館及び××××を襲撃する。

2、『反帝戰爭』を毎週一回出版すること、ほか二項を決定した。

五、『日本特支』事件の經過と結末

檢擧の端緒となつたものは、昭和三年三月青山會館で開催した孫文三週年記念追悼會に社會學研究會鄭漢先、童長榮等の急進分子が孫文並に國民黨を排撃した共産主義宣傳ビラを撒布した。警視廳では彼等の行動に不審を抱き鋭意內偵中、同年末に至つて『中國共産黨日本特委執行委員會』なる署名の入つた『廣東暴動一周年紀念日宣言』が頒布せられ、その後各左翼紀念日にはきまつて、多數の機關紙、ビラ等が各學校の內外や殊に大岡山附近の電柱その他に貼紙してあるのを發見、越えて四年八月上旬には果然、中國共産黨中央部員の梅電龍の日本潜入を知り、同人が現金二千圓を持つて、日本共産黨員田中某を訪問せんと田中の住所を探すところを、附近に張込中の警視廳外事課員が檢擧したことから、九月四日夜銀座の街頭デモ計劃が事前にバレて當夜嚴戒中の外事課員總動員の網に引つかゝつたデモ隊員を追及したところ、遂に『日本特支』の恐るべき組織が白日の下に暴露したのだつた。

事件で檢擧したものは九月四日銀座街頭デモに參加した約七十名中當夜は十四名で、うち黨員が四名。十月三日黨員及び黨外團體關係者として檢擧したもの百十三名の多數に上りその後中間檢擧により十六名、合計百廿九名、うち黨員は五十五名あつた。このうち起訴された者、三十四名。內務大臣より本邦退去命令を受けたもの四十名。諭旨退去九名となりこゝに結末を告げた。

以上述べた如く『日本特支』は中國共産の魔手が我國に伸びた最初にしては相當に大懸りなものだけに日本警察當局を唖然たらしめたが、彼等の日本左傾團體との聯絡に關しては僅に、無産者新聞の授受及び國際文化研究所、日本反帝同盟並に日本勞働組合全國協會の聯絡が出來たのみで、日本共産黨並に左翼團體との共同戰線を張る間もなく潰滅したことは、不幸中の幸といはねばならなかつた。

その後在留の中國共產黨員周汝、余心、趙蜍等が秘に來往し『中華留日自由運動大同盟』『社會科學家聯盟駐日分會』等の名義で機關紙『鬪爭』『自由戰線』等を刊行し、留日中國學生を刺戟したので、出版法違反で嚴重處分したほか、その後しばらくは全く留日學生によつてのかゝる左傾運動は跡を絶つた。

六、『華僑班』事件

(1)『華僑班』の設立まで

「日本特支」の潰滅後久しく影をひそめてゐた留日支那留學生の左翼運動は、上海事變の發生と滿洲新國家の誕生により本國內に澎湃として起つた熾烈な排日運動に煽られて重大な刺戟を受け左翼分子の行動が警視廳の視察內偵線へ出沒し始めた。

その頃、卽ち昭和七年夏から北支をはじめ各地には水害饑饉が起り、パアル・バックの小說『大地』に見るやうな慘狀眼を蔽ふが如きものがあつた。好機到來！　と雀躍りした彼等左翼分子は、早速この水害饑饉に便乘して、湖北省均縣生れ大森區南千束町二五中野方東京工業大學生考明倫（二五）が中心となり同年十月下旬『中華留日各界救濟國內難民聯合會』（難民聯合會と略稱）といふ表面は留日各界の同胞を糾合して、本國の被難民を救濟するために義捐金を募集すると巧みにカムフラージュ、頻繁に執行委員會、代表大會を開催してゐるうち漸次露骨な反日意識を表明し八年一月十五日には同會の機關紙『濟難新聞』第三號では大膽にも『本難民聯合會の義捐金は十九路軍の離散兵士並に張學良の統率する抗日東北義勇軍を救濟の對象とする』

と堂々と發表して反日態度を表明し、更に同月廿八日には『中國社會科學研究會日本分會』（『社研日本分會』と略稱）の署名で『一・二八一年記念宣言』と題し『在留中國人の眼前に於ける緊急任務は、抗日會を組織し壓迫、四散せる十九路軍の革命兵士と東北義勇軍を救濟するために義捐金を募集するにあるのだ』

と結論した檄文を發表し『難民聯合會』は『社研日本分會』の指導統制下に實在する左翼抗日團體であることが漸次判明するに至つた。

これよりさき一月五日習明倫は『難民聯合會』によつて集めた義捐金四百餘圓を携へて上海に渡つたが、二月十五日歸京と共に開催した難民聯合會執行委員會の席上で右義捐金は、在上海共產主義の二團體救濟のために提供したと報告、更に同月十九日の第四次代表大會では、第二次效濟計劃を決定し、義捐金募集を一般學生から更に在京支那人勞働者層にまで擴げて組織の擴充を計らんと活潑なる行動を起したので、警視廳外事課では三月十五日難民聯合會の中心人物と目せらるゝ習明倫ほか十四名を檢擧嚴重取調べた結果『難民聯合會』は『社研日本分會』の外廓團體たる事實が明瞭となつたばかりでなく、翌十六日、社研日本分會幹部四川省南光縣生れ、當時中野區城山町六九田澗方法政大學卒業の漆憲章(二四)ほか二名を拘引、追及する、となんと難民聯合會の正體は、昭和七年三月末他の一派によつて結成された中國共產黨の外廓團體たる中國左翼作家同盟から線を引く秘密結社團體『新興文化研究會』(「文化研會」と略稱す)も介在してゐることが判明し、その中心勢力は前記の『社研日本分會』即ち、同年四月中國共產黨の外廓團體たる「中國左翼文化總同盟」から線を引く中國科學家聯盟及び中國反帝同盟の影響下に結成した「社研日本分會」中の急進分子が中心となつて結成したものであり、更に驚くべきことは『社研日本分會』と『文化研會』とは日本共產黨の外廓團體たる『日本プロレタリア文化聯盟』指導下に合併し、日支兩國左翼の共同戰線による『日本プロレタリア科學同盟華僑班』の組織があることが明白となり、檢察當局では昭和四年の『日本特支』を凌ぐ鬪爭形態を備へた組織に、今更わが國に伸びる執拗な中國共產黨赤化の魔手に憤激、最後の一人をものがさじと剔抉のメスを揮ひ數十名を檢擧、うち二名を起訴廿二名を國外追放に處したのだつた。

以下各團體の組織形態及び活躍狀況を述べる。

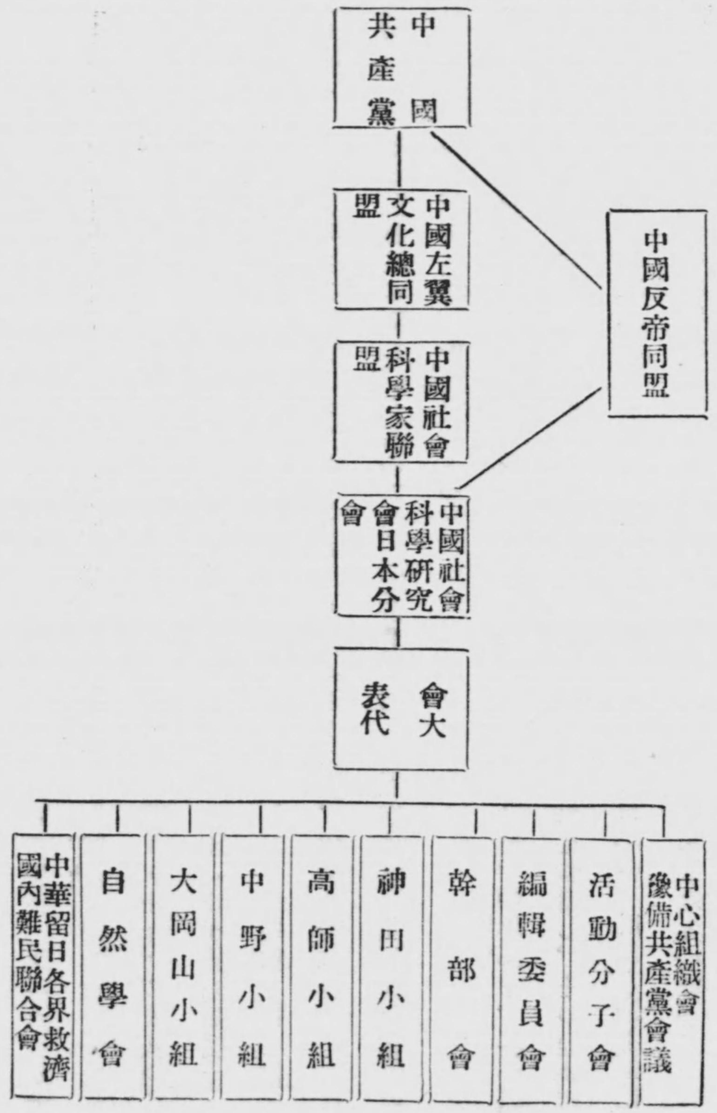
(2) 中國社會科學研究會日本分會

華僑班事件

昭和七年四月本邦に渡來した法政大學生漆憲章は滿洲事變勃發と共に歸國した『社研日本分會』幹部の後をうけて中國共產黨の外廓團體である『中國左翼文化總同盟』の影響下にある在上海の『中國社會科學家聯盟』の指導下に『社研日本分會』の再組織を企圖し、自らその總務となり組織部、研部、編輯委員等の各責任者を選び幹部會を確立、これを指導統制及び執行機關として頻繁に會合して同志の獲得に狂奔する一方、組織の擴大强化に關する諸般の計劃を決定し、秘密出版、科學半月刊、科學新聞その他各種の檄文を發行し、留日支那學生及び本國關係その他に頒布して主義の宣傳に努め、各機關紙はことごとく毎號發賣頒布禁止に遭ひながらも、諸般の潛行實際運動に果敢な鬪爭を續け、幹部の確立に次ぎ大岡山、神田、高師、中野に各小組合を組織し、ほかに活動分子會、自然學會を作り、殊に注目すべきは總務漆憲章は昭和七年十月、會員中の活動性及びマルクス・レーニン主義に相當な認識を持つ、折江省奉化縣生れ當時神田區中猿樂町三一日華學會東京醫學專門學校生汪成模（二七）山東省鉅野縣生れ當時澁谷區代々木西原町九一七・八子方法政大學生郭兆昌（二五）工大生習明倫（二五）廣東省豪山縣生れ當時中野區宮園通二ノ一六、桃園館方明治大學生黃鍾銘（二六）の五名をもつて『豫備中國共產黨』を組織し市內數ヶ所にアヂトを作り、屢々秘密會合を持ち會員の連絡提携を緊密にし『社研日本分會』の積極的活動母體となり、これが指導統制を圖つてゐたことで、この會員中には『日本勞農救援會』に參加して班を結成したものもあるといふ急進分子も居つた。而して、漆憲章、習明倫は昭和八年一月難民聯合會で募集した義捐金を携行上海に渡つた際、中國共產黨員にして且つ中國社會科學聯盟員某に對し、五名の入黨履歷書を提出し漆憲章は歸京後これを黨員に報告して激勵し、活潑な運動に從事してゐた。

また後述する『難民聯合會』を牛耳つた連中も實に『社研日本分會』の幹部で、各小組會では殆ど毎週一回會合し、マルクス經濟學のほか各種の左翼文獻を涉獵し、その他時事問題等を研究對論し、主義運動中は一貫して××××××××を目的に、反日意識を强化しつゝマルクス主義の指導精神を實踐活動に展開する研究を繼續してゐたものである。

中國社會科學研究會日本分會



(3) 新興文化研究會

昭和七年三月下旬湖北省新春縣生れ當時中野區野方町下沼袋八六二西武館止宿早稻田大學生方瀚(二八)、同じく四谷區仲町三ノ二二高島方慶應大學生張光人(二七)湖北省京山生れ牛込區早稻田鶴巻町四一四早成館内無學籍聶衣葛(二九)及び樓憲(歸國)等四人が協議して『社研日本分會』と別に中國共産黨の外廓團體である中國左翼作家同盟の指導下に『新興文化研究會』を組織し方瀚が總務となり、その下に指導統制及び執行機關として書記局を置き、張光人と聶衣葛とが書記局員となり、研究機關として政治經濟研究部、文藝研究部の兩部を結成、書記局會に於いては組織の擴大强化に關する計劃を樹立、屢々會合のうへ機關紙『文化鬪爭』『文化之光』その他檄文に揭載する記事の審議決定をなしたほか、各種の執拗巧妙な實際運動に從事、また組合に於いては日本帝國主義打倒を目的とする日支間の時局問題、マルクス經濟學その他各種左翼文献を題材として批評研究を重ね、

共産主義革命の實踐活動者の養成に努め、その機關紙には匿名で、各會員の研究した起稿文は勿論、本共産黨中央機關紙『赤旗』中國共産黨の機關紙『紅旗』その他左翼文献の記事を轉載し、これを留日支那人學生及び本國の各學校同志に廣く頒布、主義宣傳に狂奔してゐた。更にまた總務の方瀚は同年八月日本反帝同盟員朝鮮人李某と連絡をつけ李の紹介で同同盟員朝鮮人秋山こと鄭雲祥と連絡し、更に同人の紹介で方瀚、及び湖北省漢陽縣生れ當時淀橋區諏訪町二三六新井方明治大學生王承志（二七）の兩者は『日本反帝同盟』に加入し、日、支、臺、鮮人のプロレタリア大衆青年學生より成る反帝共同戰線を確立して大衆獲得及び國際連帶性の組織提唱の下に活動するに及んだ。

さらに方瀚は同年十月上旬から鄭雲祥の仲介で日本共産黨員西川某、村山某等と連絡し王承志と共に日本共産黨に共鳴して『赤旗友の會』を組織し、各會員は兩名より『赤旗』の配布を受け、これを輪讀して共産主義革命を謳歌するに至り、方瀚王承志の兩人は昭和八年二月中旬、遂に日本共産黨に入黨の手續きを取り履歴書を黨員村山某に手交、同年二

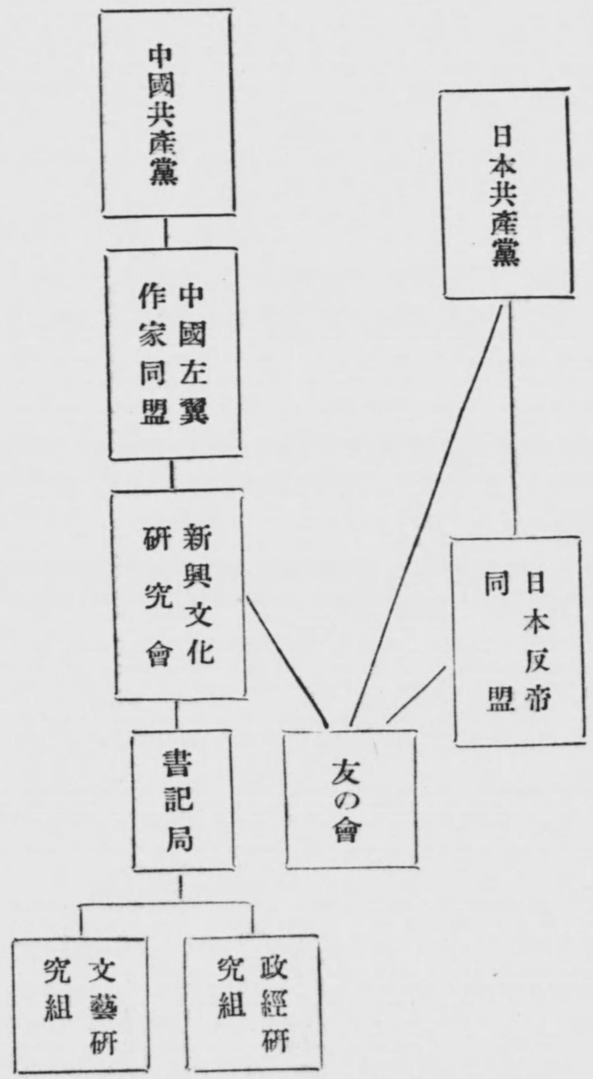
月下旬黨の上部から正式入黨の承認を受けた。なほその間兩人は黨に相當な活動資金を提供した。

この『文化研會』政經研究組員中には『華僑班』事件全體を通じての紅一點、河北省南宮縣生れ當時牛込區早稻田鶴巻町四一四早成館止宿早大卒周穎（二七）があつた。周穎は民國十六年天津河北第一女子師範學校卒業、南京中央政治學校に入學、翌十七年六月同校卒、同校の職員となつたが同年十一月同校の教師聶紺弩（三〇）と結婚、昭和四年十二月始め政治研究の目的で單身上京し、始め東亞高等豫備校で日本語を學び、翌五年四月早稻田大學政經科の聽講生となり、同年十一月から外務省文化事業部給費生として毎月七十圓の支給を受けつゝ早大を卒業したものであつた。

(4) 中華留日各界救濟國內難民聯合會

昭和七年十月下旬在京中國留學生の急進分子湖北省蘄水縣生れ當時大森區北千束町七七

新興文化研究會組織



五東京工業大學生徐文壽（二九）四川省酆都縣生れ當時目黒區工業大學寄宿舍東京工業大學生甘麐四（二二）河南省新蔡縣生れ當時神田區表猿樂町二芦原方日本大學生袁鎔堃（二五）山東省鉅野縣生れ當時澁谷區代々木西原九一七八子方法政大學生郭兆昌等が中心となり、本國の水害饑饉救濟に名を假りて合法の假面を被り、抗日を眞の目的とする『難民聯合會』を組織した。一方これが組織されるや『社研日本分會』の幹部は大擧して乘込み、河南省濟源縣生れ當時小石川郡茗荷谷町九八小柳方東京高等師範學校生苗維清（二六）を總務部長に押して、汪成模（東醫生）が宣傳部長、習明倫（工大生）が組織部長、郭兆昌（法大生）が救濟部長、陝西省華縣生れ當時大森區雪ケ谷町四〇牧野方明治大學生關中哲（二八）が調査部長にそれ〳〵就任し、十數回の執行委員會、四回の代表大會を開催し、組織の擴大强化に關する各種の具體的方策を審議決定、一般勞働者に至るまで同會に加入せしめて母國の共産並に抗日團體と連絡をとりつゝ、在留支那人間に抗日の必要を宣傳する等、各種の實際運動に從事しつゝあつたが、その間昭和七年十一月から『社研日本分會』幹部は

優勢を以つて、獨斷で行動方針を決定し、これを『難民聯合會代表大會』で一擧に可決せしめ、一般華僑に對し會員の獲得、義捐金の募集に狂奔した結果、翌八年一月上旬には早くも會員八百六十名の多數に上り、義捐金は八十餘圓に達したので（その後義捐金は四百餘圓となる）第三次代表大會に於いて、前述の如く救濟對象を決定し赴國代表として習明倫が同年一月五日横濱出帆の『阿蘇丸』で渡滬し、次いでこれが援助のため『社研日本分會』總務漆憲章も續いて渡滬し、兩人は『上海反帝同盟』員陳公愚と會見して、具體的な救濟對象について協議した。彼等が滯在中に『難民聯合會』からは習明倫に宛て義捐金三百二十五圓が二回に亘つて送金されたので、當初の目的たる『十九路軍の革命兵士と東北義勇軍の救濟』を變更して、共産系の『上海一・二八難民救濟會』に米十七石（代金百四十五元餘）を購入し、また同係『上海滬西失業工人會』に米代とし金二百七元を交付したので、兩會では『難民聯合會』に感謝のメッセージを交付したので、習明倫はこれを携へて歸京、二月十五日の執行委員會席上で、上海に於ける救濟工作の一切を報告し、更に同月十九日の第四次代表大會に於いては、第二次の救濟對策並に組織擴大に關する方策を決定して、檢擧直前までこれを實行に移さんとしつゝあつたものである。

以上の如く『難民聯合會』は『社研日本分會』の一部としてその指導下に思ふがまゝに動いたと見るのが至當であらう。

(5) 日本プロレタリア科學同盟華僑班

本項の題目、『華僑班』事件は『日本プロレタリア科學同盟華僑班』の略稱で『華僑班』こそ彼等一味が『社研日本分會』併びに『文化研會』を所謂る發展的解消して、最後に立籠り日本共産黨の純然たる外廓團體として、活躍せんとし發覺總檢擧されたものである。

昭和七年春『社研日本分會』と『文化研會』とは相前後して成立、當初よりその機關紙上に於いて、互に一方を錯誤ありとして激烈な理論鬪爭を續け來つたもので、この論爭が餘りに猛烈なため中國共産黨中央部の問題となり　同年十二月末、『中國左翼文化總同盟』

代表適夷が、兩團體の紛爭解決のため渡日し兩團體幹部と數次の會見を行ひ、そのセクト的精神を清算して團結せよと種々說得、適夷は『文化研會と社研日本分會の紛糾に對する聲明』と題する印刷物を留學生間に發表、兩團體今後の方向を示したが納らず、紛爭は更に激化し『社研日本分會』では早速、適夷代表の聲明書に不滿の意を表した『社研日本分會全體會員の重要聲明』と題する印刷物を發表、正面衝突抗爭を續けてゐたが『社研日本分會』總務漆憲章は前記の如く習明倫の援助を兼ねて、一月十八日渡滬し上海佛租界平安旅舍に習と共に滯在し、『上海反帝同盟』員陳公愚『中國社會科學聯盟』員吳某及び指導團體又は『中國左翼文化總同盟』員等と會合、今後の活動方針につき種々意見の交換を行つたうへ、翌八年一月二十九日歸國した適夷が『中國左翼文化總同盟中央常任委員會』の決議を漆憲章に手交したうへ、

『留日一切の革命團體は國際連帶性の組織系統下に成立すべきものなるも以て留日同志は日本プロレタリア文化聯盟に加入し、日本同志の貴重なる經驗を學習し、左翼運動の幹部人材を養成し、これを續々本國に送り國內鬪爭力量を充實すべきである』

と重大指示をなしたに對し、漆憲章はこれを全面的に支持するが、一應留日同志と協議する旨を答へて、二月四日歸京し、同月中旬ごろ『日本プロレタリア科學同盟』員でコップ關係者の澁谷區豐澤町五小林方淺川兼次と會見、同人の仲介で『文化研會』幹部方瀚と數次の會見を行ひ折衝を遂げた結果『中國文總』の決議に基き兩團體を同時に解散し『日本プロレタリア文化聯盟』指導下に日本共產黨の外廓團體たる『日本プロレタリア科學同盟華僑班』を日支人共同で組織し、班委員會並に研究部間を確立し同時にその成立宣言を頒布し、舊『社研日本分會』舊『文化研會』のメンバーは勿論、一般留日支那學生層を越へた一般華僑、臺、鮮人に對しても革命意識を宣傳し、もつて班の擴大强化に活躍し、全同盟組織綱領、並に『獨立運動三・一紀念日を迎へて文化聯盟朝鮮協議會に告ぐ』と題する宣傳文の頒布に着手、果敢な鬪爭準備を整備しつゝあつたものである。ことのついでに、前記『華僑班成立宣言』を紹介しよう。これは昭和八年三月八日に頒布されたるもので先づ、

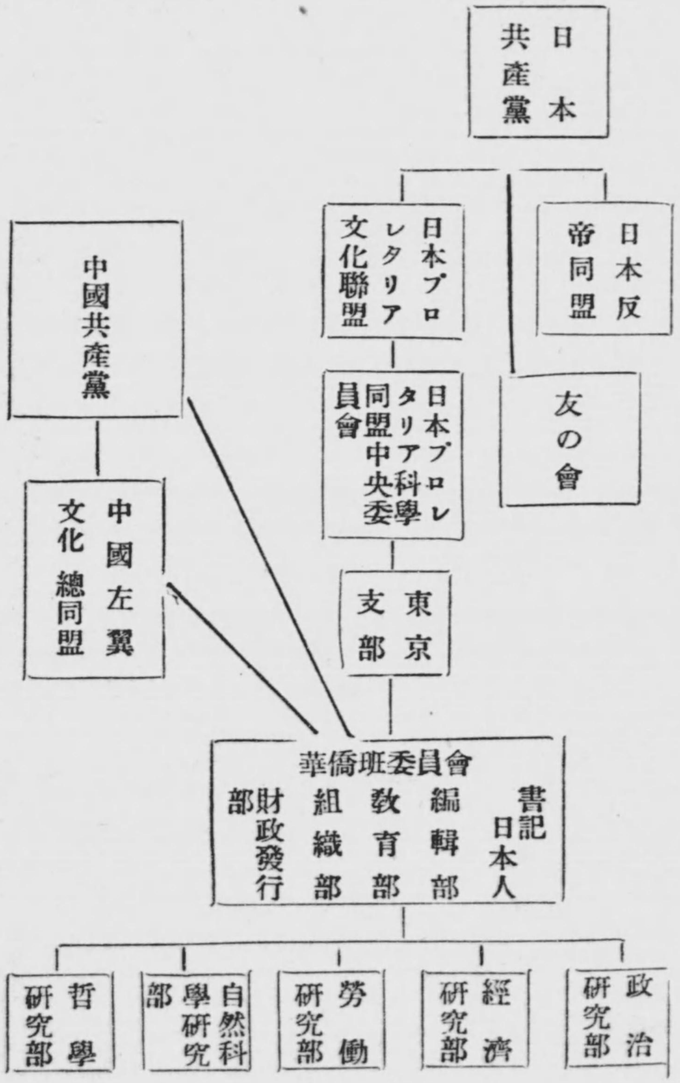
『日本在留の華工（註、支那人勞働者）留學生一般華僑（註、在留支那人）諸君』

といふ冒頭で始まり、

『中國は帝國主義の半植民地として壓迫され、中國國民黨の各派は帝國主義と結托して帝國主義の我が中國を侵略する案內役である』と斷じ、滿洲事變、上海事變を論難し、ついで『從來の文化研究會と社會科學研究會日本分會との對立は如上の組織原則に通ぜざるために錯誤を生じて、兩者共その行動梗塞するに至つたのは要するに結合鬪爭を缺いたためである。之に對し中國文化研究會と日本文化聯盟とは旣に上述の錯誤を指摘し且つ中國文化總聯盟は一つの決議をなした。卽ち從來の組織を一切解消して日本文化聯盟下の各文化團體に入り、積極的に日本勞農大衆の鬪爭に參加せんとするものである。我等は之等の組織、實行方法、原則等により此處に中國文化總聯盟と文化聯盟との指導を受け、日本プロ科學同盟の華僑班を成立せしめたのである』

と兩團體解消から華僑班の成立に至る一切の經緯を宣言したものである。

日本プロレタリア科學同盟華僑班



華僑班事件

(6) 華僑班の組織

組織の基礎的形態は『組』を單位として『組』の上の『班』は各組の活動を指導し、プロ科學者同盟の統制指導に直屬せしめる。

而して『班』の最高機關を『班委員會』として構成形態は、書記長・組織部・教育部・編輯部・財政發行部に分ち、

1、書記長は上級機關と連絡し、會務の處理、會議の順序、召集を規定す
2、組織部は組織並に小組擴大の責任を負ひ『組』の書記と連絡する
3、教育部は『班』の行動綱領、教育活動綱領を制定し一切の教育活動を指導す
4、編輯部は一切の定期臨時出版物一切の編輯活動をなす
5、財政發行部は『同盟費』及び各種の費用を徴收し支出の責任を負ひ、各種出版物及び文書を發行する

なほ班委員會には各專門部を設け、政治研究部、經濟研究部、勞働研究部、自然科學研究部、哲學研究部等に分ち各專門部の活動を指導し班委員會議は毎週一回開催して、一切の提案を對論、決議し各組の活動を指導する。その他嚴重な罰則まで規定した。

以上の如くで『華僑班』は三月八日に宣言、組織に着手し、同月十五日に最初の檢擧があり、翌十六日には首魁の漆憲章ほかが逮捕されたので、何等の活動する暇もなく潰滅したのであつた。

なほ華僑文化運動の最高指導機關は『中國協議會』であり、これは各加盟團體から代表を擧げて組織した。所謂加盟團體とは科學班、文學班教育班、演劇班等で、科學班はプロ科學者同盟に直屬し、文學班はプロ作家同盟に直屬する等を意味するもので、かくして組織した『中國協議』なるものは『日本プロレタリア文化聯盟』の統制下に直屬してゐたものである。

(7) 事件の結末

合法假面で躍つた『難民聯合會』が發覺の端緒となり、昭和七年三月十五日まづ中心人物と目せられた習明倫以下十七名が檢擧され、翌十六日には『社研日本分會』の漆憲章ほか二名が、十七日には『文化研會』總務方瀚と淺川兼次が、越えて十八日には同じく王承志、紅一點の女性周穎ら四名が逮捕され疾風迅雷的檢擧によつて一味を打盡にしたが、事件取調べの結果『文化研會』總務方瀚（早大生）と同會員王承志（早大生）の兩名は日本共產黨員たること明瞭となつたので直ちに起訴收容され、その他左の廿二名

『難民聯合會』關係（十名）

習明倫（工大生）汪成模（東醫生）徐文壽（工大生）褚師良（工大生）甘塵囚（工大生）袁鍾堃（日大生）郭兆昌（法大生）苗維清（高師生）關中也（明大生）張季飛（高師生）

『社研日本分會』關係（八名）

宗祖屏（明大生）胡載球（高師生）漆憲章（法大生）黃鍾銘（明大生）江岡裕（高師生）陳伯齋（工大生）王景炎（明大卒）金書玉（鐵道教習所生）

『文化研會』關係（三名）

周穎（早大）張光人（慶大生）聶衣葛（入學準備中）

その他（一名）

吳涵（帝大農業科生）

等は同年六月十三日神戸出帆の『長崎丸』と十五日同じく神戸出帆の『箱根丸』の二回に分け一名につき、警官一名の嚴重な監視つきで神戸まで同行し、日本最後の寄港地である福岡と、長崎兩縣へは特に警視總監の名を以つて、嚴重監視方を通牒し、帝國の治安を紊これ等危險分子を國外追放したのであつた。

七、留東新聞社事件

執拗な中國共產黨の手先に躍る留日支那學生の左翼抗日運動も、打續く彈壓と水も洩らさぬ嚴重な監視下に根絶したかに見へたが、彼等のうち强烈な左翼反日思想を抱持する小數の者はなほ蠢動を止めず、本國の抗日侮日政策を反映して左翼から抗日へと鬪爭の局面を展開した。

卽ち帝都で、堂々と週刊新聞を發行して、にくむべき抗日思想の宣傳に狂奔してゐた『留東新聞』事件が起つた。

『留東新聞』の創刊と抗日活動

昭和十年六月神田一ツ橋に日支兩國の政治經濟、外交、軍事並に留日支那人學生の消息を報道すると稱し、新聞紙法による二千圓の保證金を警視廳に積立てた週刊『留東新聞社』が創設された。最初は何の變哲もなかつたが、號を重ねるに從つて左翼抗日思想を帶びた記事が紙面に表れ、警視廳檢閱課から再三の注意を發したが、少しも態度を改めず、昭和十一年一月十日以降、實に十回に亙つて發賣頒布禁止差押處分に付し、同新聞社の主幹、四川省江安縣生れ當時神田區一ツ橋二ノ三早大生ペンネーム張先奇こと張健冬（二七）編輯兼發行人四川省富順縣生れ、同番地早大生ペンネーム簡家福こと簡泰梁（二六）會社事務員、江蘇省鹽城縣當時麹町飯田町新井方中大生ペンネーム王希明こと王瑞符（三一）の三名の行動につき嚴重監視したところ、中國共產黨の指導團體『中國救國會』その他の抗日人民戰線を指導精神とする新聞雜誌と留東新聞を交換して、これを同社圖書室に備へつけ、一般留日支那人學生に閱覽せしめるほか、『唯物論研究會』『勞働新聞社』消費組合等の我國の左翼團體と密かに連絡して、專ら左翼抗日を目的に新聞を編輯、十一年十月ごろからは抗日侮日宣傳を主たる任務とする在上海『現世界社』と連絡、その機關雜誌『現

世界」を輸入禁止にも拘らず五回に亘り、百三十五部を密に取寄せて王瑞符に販賣せしめ留日支那人學生に左翼抗日思想の宣傳に努めてゐることが判明したので、昭和十二年一月十四日、主幹の張健冬ら三名を一齊檢擧、頑として改悛の狀がないので同月廿五日橫濱出帆の『阿蘇丸』で上海に國外追放した。『留東新聞社』については以上の如く、殆どその組織を持たないので以下各個人の抗日鬪爭を記すことにする。

1、張　健　冬

民國十九年六月四川省酆都縣立中學校訓育主任、同省眉山縣建設科長を歷任して、昭和八年十二月上海から長崎を經て入京、同九年四月から明大大學院農業經濟科に入學したが、同十一年三月退學した。これよりさき同十年六月ころ學友で當時早大專門部政經科生だつた簡泰梁ほか三名と共に、左翼反日思想宣傳の目的で『留東新聞社』を創立し、同年十月保證金二千圓を納入して合法假面を被り、毎週二千五百部を發行これを留日支那人學生及び支那に關係ある日本人、我國の左翼團體等に千二百部を發賣頒布したほか、各新聞社、各大學々生會その他に二百部を頒布してゐたが、紙上には常に左翼抗日記事を發表して宣傳煽動に努めてゐた。差押處分を受けた中にも最も狹激な抗日記事として左の如きものがあつた。

A、昭和十一年一月十七日付け第十六期の『日本軍部のイデオロギー』
B、同年三月二十日付け第二十五期の『日本軍部のイデオロギー』
C、同年七月十七日付け第四十一期の『日本政治現在の結核』
D、同紙上の『西班牙內亂及びその國際的影響』
E、同年九月四日付け第四十五期の『成都事件と日支の前途』
F、同年十一月二十日付け第五十四期の『綏蒙の風雲險惡日支交涉打切りか』
C、同紙上で『上海日本紡績工場罷業擴大、大日本陸戰隊兵を發し彈壓』

等々があり、また一方、我國に逃亡中だつた中國左翼作家、郭沫若及び左翼留日支那學生らの左傾抗日記事を歡迎してこれを揭載、その間本國から『中國救國會』の宣言及び數

十種の左傾抗日宣傳雜誌、新聞を取寄せて同社に備へつけ一般に閲覽せしめて宣傳、また同社事務室に留學生の私書函を備付けて學生間の秘密連絡の役割を擔當するほか、更に十年十月ころから在上海『現世界社』と連絡し『現世界』を密かに取寄せて販賣せしめ『中華留日學生聯合會』の會合に出席してアヂ演說をなしてゐたものである。

2、簡　泰　梁

民國二十年六月北平民國大學を卒業後、遊學の目的と稱して、昭和八年十一月二十八日上海から長崎を經て上京、同九年四月から早稻田大學大學院農業經濟科に入學、同年六月より早大專門部政經科に轉科したが、同人は元來左傾抗日思想を持ち同十年六月前記の張健冬らと『留東新聞社』を創設し、その編輯兼發行人となり、同十一年五月には同新聞の擴大充實のために金二千圓の資金を提供して、屢々紙上に左翼抗日記事を掲載して一般留日支那學生に宣傳煽動に努めてゐた。その甚しきものは左の如くであつた。

A、昭和十一年五月一日付け留東新聞第三十一期の『大陸政策は呼應して海軍省海洋政策を確立』

B、同年八月廿一日付け第四十四期紙上の『日本對華外交轉換論』等があり、主幹張健冬とのコンビで左翼抗日宣傳に狂奔してゐたものである。

3、王　瑞　符

民國二十年六月、北平朝陽學院專門部法科を卒業後、福建省厦門集美村師範學校教員となり、昭和十一年一月廿八日、農業政策研究の目的で、上海から神戸に渡來入京、同年六月中央大學經濟研究科に入學したが、張、簡等の留東新聞に共鳴してその事務員となり、販賣發送を一手に引受け、留日支那人學生及び本國左翼抗日團體等に直接發賣頒布し、同年十月下旬ごろ在上海『現世界社』から左翼抗日宣傳雜誌『現世界』を五回に亘つて百三十五部を送付し來るや、これを直接發賣頒布すると共に、一部を神田區神保町の某書店に委託販賣せしめてゐたものである。

八、中國文藝家協會員事件

支那事變直前の昭和十二年六月廿六日、警視廳外事課の手に捕はれた、『ソヴエート・エスペラント』同盟の指導下にある上海協會と連絡し、日本人で『日本プロレタリア・エスペランチスト同盟』通稱『ボエウ』の檢擧洩れとなつてゐた中垣兼治(四四)を講師として國際語研究の蔭に共産反日主義宣傳の暗躍を續けてゐた。淀橋區諏訪町九〇番地吉田方明大生隆克强(二五)を責任者とする、日大生黄一寰(二四)同陳秋煥(二五)法大生季益三(二五)ほか數名が、『エスペラント中華人グループ』を組織して、同年七月十四日上海で開催される上海エスペラント五十週年大會を目ざして、活動をつづけてゐたのを最後として、支那事變が勃發して留日支那學生が本國へ引上げるまで頑强な運動を繼續したが、中國文藝家協會員事件もこれよりさき昭和十二年三月に起つた彼等の左翼抗日運動であつた。河北省冀縣生れ、淀橋郡戸塚諏訪町五二諏訪ホテル止宿早稲田大學卒邢桐華(二九)を首魁とし、浙江省鄞縣生れ小石川區白山御殿町一〇臼井方東京高師生張香山(二三)湖南省長沙縣生れ、淀橋區上落合二丁目八八四、岩堀方明治大學生魏猛克(二七)江西省贛縣生れ、小石川區金富町一九、瀧方東京高師生魏晉(二九)等の一味四名は、左翼抗日思想宣傳の意圖の下に、昭和十年五月以降『雜文社』『質文社』『詩歌社』『東流文藝社』等の左翼文化團體を結成、日本警察當局監視の眼を逃れるため編輯のみを東京でなし印刷はすべて上海で付し、また海外左傾抗日團體に對し盛んに左翼抗日思想の宣傳に狂奔してゐたが、昭和十年十二月『詩歌社』十一年十二月に『質文社』が反共政策を執りつゝあつた中國政府の手で發行停止を命ぜられ、宣傳機關を失つたので、彼等は海外友誼團體機關紙に左翼抗日記事を寄稿し、その間昭和十一年六月中國共産黨の外廓團體として、世界的作家魯迅も關係を持つてゐた上海に『中國文藝家協會』が結成されるや、邢等四人は擧つてこれに加入して、ます〳〵活潑な潛行的活動をなすに至つたので、前記四名を十二

年三月八日、警視廳外事課で檢擧、取調べた結果、今後多數留日中の支那學生の思想行動を左翼化する虞れがあるので、同年四月二日、同五日の二回に分け上海に向けて追放して結末を告げるに至つた。この事件で吾々の留意に値するの點は、彼等が以前の『日本特支』『華僑班』事件等と異り、大きな組織を持たず、直接中國共産の外廓團體員となつた點と、各國に留學する支那學生中の左翼分子と連絡をとり、それ〴〵機關紙に左翼抗日記事の交換揭載を行ひ、一般留學生に働きかけ鬪爭場面を國際的に展開するに至つた二點である。

この事件には團體として、この組織に見るべきものがないので、以下各個人につきその行動を記すことにする。

(1) 邢桐華

昭和三年九月、文學研究の目的と稱して、渡來入京し、早大第一高等學院を經て同十二年三月早大露文科を卒業したが、すでに在學中から强烈な左翼抗日思想を抱き、昭和五年七月一時上海に歸國した當時、上海に於いて開催中の左翼作家聯盟主催の講習會に同志の童我愉、許邦和と共に講議を受け、同年八月、童、許兩名が中國共産主義青年團に加入するや、同人も亦『中國左翼作家聯盟』に加盟し、文藝部所屬となつて活動してゐたが、同年十月日本へ再渡來、童我愉らと連絡して、文學を通じて在京中國留學生に共産主義宣傳に努めてゐたほか、『日本赤色救援會』に基金を提供、更に昭和六年九月滿洲事變勃發するや、同人は一時歸國し上海に於いて在滬中國留日學生會と稱する反日團體に參加して、留日運動を起し、また同十年七月以來は左翼學生の文化團體たる『雜文社』『質文社』『詩歌社』の指導者となり、中國政府の逮捕追及を逃れて、亡命中の中國左翼作家郭沫若らと秘密裡に『國防文學座談會』の會合を屢々行ひ、それぞれの機關雜誌を通じて、一般留學生に、左翼抗日思想の宣傳に活動、昭和十一年六月上海に中國共産黨の外廓團體として、『中國文藝家協會』が結成さるゝと知るや、直ちにこれに加入、昭和十年十二月『詩歌社』

同年十一年十二月『質文社』は共産主義宣傳雜誌と目せられ、中國政府から發行停止處分を受け、その宣傳機關を失つたが、今度は直接舌による主義の宣傳をなさんと志し、各種の留日支那學生の會合には必ず出席して、抗日左翼の講演をなしてゐた。その間、昭和十一年六月ころ在モスクワの『ソビエツト作家聯盟』に加盟する留ソ支那學生のエミ、蕭愛梅に對し、『ゴリキーに捧ぐ』ほか數篇の詩、論文を送り、また同年五月には南京發行の雜誌『時事類編』には『ロマン・ロランの七十回誕辰を祝す』と題する百二十枚ばかりの論文を寄稿する等、文化運動の假面を被つて盛んに左翼抗日思想の宣傳に活動してゐたものである。

(2) 張香山

昭和八年十月、天津中日中學校高級六年を中途退學して、東京高師へ入學の目的で、同年十月日本へ渡來入京、同九年四月東京高師に入學、同十年九月からは外務省對支文化事業部から月額四十五圓の學費の支給を受けてゐたが、同人は昭和十年五月在京左翼支那人學生と共に左翼團體『雜文社』を結成し、同年十二月『質文社』と改稱し、同十年八月、『東流文藝社』に加盟して郭沫若等と『國防文學座談會』等を開催して、左翼抗日意識の昂揚に努め、同九年六月には邢桐華と共に『中國文藝家協會』に加盟、その間昭和九年四月から在天津『大公報』在上海『申報社』に每月左傾抗日宣傳記事を寄稿、更に同十一年三月から在上海『東邦文藝社』第一期に『蘇聯農民文學の一考察』と題する記事を十二年一月二十四日付『大公報』文藝欄にまた『敗北者群』と題する共産主義宣傳記事を寄稿する等、その目的遂行のために活動中だつたものである。

(3) 魏猛克

上海美術專門學校を卒業し、昭和九年十一月文學研究の目的と稱して、我國に渡來入京し、神田東亞學校を經て昭和十年四月から明治大學高等專攻科經濟科に入學した。

同人は昭和十年五月以來、左翼留日支那學生の主宰する『詩歌社』『東流文藝社』『雜文社』『質文社』に加入し、その機關雜誌を通じて左翼抗日の宣傳に活躍、同十一年六月には邢、張らと共に『中國文藝家協會』に加盟、その『創作組』に所屬して在上海の左翼雜誌『濤聲』『芒種』等に共産反日記事を寄稿して、主義の宣傳に努めたほか郭沫若らと『國防文學座談會』を秘かに開催して左翼抗日宣傳を煽動してゐたものである。

(4) 魏晉

在上海の復旦大學部一年を中退後、昭和五年八月教育學研究の目的と稱し我國に渡來入京、昭和九年四月から東京高師に入學したもので、同人は中學の頃から上海に於いてデモ隊に參加した活動經歷を有し、昭和九年三月ころから、同人の指導下に左翼抗日思想宣傳を目的とする『東流文藝社』を結成し、多數の留學生を勸誘して同會に加入せしめ、同十年四月ころ新宿喫茶店白十字に於いて、日本人新井徹、遠藤輝夫、臺灣人吳坤煌等と秘密

會合をなし、お互に國境を越えてプロレタリア詩のため奮闘すべく決議してその後『詩歌社』を創立し、各その機關雜誌を通じて左翼宣傳に努め、同十年十二月『詩歌社』は中國政府から共産主義宣傳誌として、その發行停止を命ぜられたので、同人は同志を激勵して青島、上海、天津の友誼團體に左翼記事を寄稿せしめ、また同十一年一月ころ本國の同志から左翼雜誌『詩歌生活』小冊子『飢餓咆哮』等を取寄せてこれを發賣頒布して主義の宣傳に努め、同十一年六月上海に走つて、邢、張、魏猛克らと共に『中國文藝家協會』に卒先して加盟し、張香山を誘つて同協會宛に寄稿し、十二年一月上海に於いて左翼抗日思想の宣傳を目的とする『中國詩歌作者協會』を結成されるや、直ちにこれにも加盟して果敢な左翼抗日闘爭を續けてゐたものである。

支那赤化とソビエット聯邦

一、露支の政治關係の發端

支那に於ける共産運動の發展は、ソビエット聯邦にその源を發し、中國共産黨の創立、中國國民黨と共産黨の提携、ソビエット地域の建設等、悉くコミンテルンの指導援助に依るものであることは云ふまでもない。

コミンテルンの斯の如き活動は、總てソビエット聯邦首腦部の最高政策より出たもので ソ聯の此の政策は、ソビエット革命成立と同時に計畫せられた東方赤化政策の一として、極めて組織的に實行されて來たのである。

モスコー政府は一九一七年、ソビエット革命の成立と共に、革命支那を友邦とする意味から支那に對する國交恢復を計畫し、一九一九年七月廿五日、モスコー政府執行委員代理

カラハンの名を以て、支那國民及び北京政府（當時大總統は徐世昌）、廣東政府（當時主席總裁は岑春煊）に宛て、修交宣言を發した。宣言に曰く『ロシア人民委員會議は、ソビエット軍隊が外國の武力と財力との支持を受けた反革命運動派のコルチャックの軍隊を擊破し、シベリアに進軍せんとするに當つて支那全國民に對し、こゝに友誼的書簡を送るものである。ソビエット聯邦及ソビエット赤衞軍が、今や二個年の苦鬪と比類なき努力に依つて、ウラルを越えて東方に向つて進軍しつゝあるのは決して不法を行ひ、他を奴隷とし或ひは征服せんがためではない。シベリアの農民及び勞働者は良くこのことを承知して居る。吾々は東方の虐げられた民族、就中支那國民を、外國の銃劍と黃金の羈絆より解放せんとするものである。吾人は獨り我が國の勞働階級のみならず、支那國民にも吾人の救援をもたらさんとするもので、此の點には吾人は一九一七年の十月大革命の第一日以來聲明し來つたにも拘らず、歐米及び日本の腐敗した新聞紙のために、支那國民に隱蔽せられた事實を想ひ起すものである。ソビエット政府は一九一七年十月政權を掌握するや、直ちに世界各國民に對し、眞に永遠の平和を樹立すべきことを提議した。抑々吾人が提議した平和は外國の領土の占領、他國民を强力を以て隷屬せしめること、及び一部の賠償金を放棄することを其の礎とせんとするものであつた。何れの國民も大小の別なく、苟くも生存する限り――從來獨立の生存をなしたると、その意志に反し、外國の一部に編入されたるとを問はず――その內面的生存に於て完全なる自由を享有すべきで、如何なる政府と雖も强力を以て之を其の領域內に引止めてはならない。

ソビエット政府は、舊ロシア國帝政政府が日本、支那及び舊聯合諸國と締結した凡ての秘密條約、（ロシア帝政政府が聯合國と共にロシア國の資本家、地主及び軍人の利益のため暴力と賄賂とに依り、東洋の民族、特に支那國民を拘束するの具に供した諸條約）の無效なることを宣言した。ソビエット政府は當時既に支那政府に一八九六年の條約、一九〇一年の北京議定書及び一九〇六年の間に日本と締結した協約全部の廢棄、並びに舊ロシア帝政政府が單獨に、又は日本及聯合國と協同して、支那國民より獲得した、凡

てのもの丶還付に關し、商議せんことを提議した。

此の問題に關する商議は一九一八年三月まで繼續したが、聯合國は突如として北京政府に迫り、北京の官邊、支那の新聞紙等に黃金を散じ、支那政府をしてソビエット政府との關係を中絶せしめるの已むなきに至らしめ、又日本及び聯合諸國は、東支鐵道が支那國民に引渡さるゝを待たずして之を占領し、シベリアに侵入し、且つ支那の軍隊を强要して、此の比類なき盜賊行爲を手傳はしめた。

以上の過去に照し、吾人は今日再び支那國民に告げて、その眼を開かしめんと欲するのである。

ソビエット政府は、舊ロシア帝政政府が滿洲及その他の地方に於て奪取した土地を總て放棄した。此等の地方に居住する人民には、何れの國の領域内に殘留するとも、亦何れの國家に永住せんとするも、その自由選擇に委せる。ソビエット政府は國匪事變賠償金の受取分をも放棄する。此の聲明を玆に又繰返さゞるを得ない理由は、吾人の有する情報に依れば吾人がこれを放棄したにも拘らず、該賠償金のロシア國受取分は、舊ロシア帝政政府の在支公使及領事等の虛榮を滿足せしめんがため、今尙ほ聯合國の手に依て取り立てられてゐる趣きだからである。此等の舊帝政政府の官吏はすべて久しい以前その權限を喪失したにも拘らず、舊の地位を保持し、日本その他の聯合國の援助を得て、今尙支那國民を欺罔してゐる。支那國民は此の事實を知らねばならない。そして彼等を詐欺、歎瞞を事とするものとして、國外に放逐せねばならない。

ソビエット政府は、支那領土内に於けるロシア人の一切の特權及び特典を放棄する。又ロシア人の官吏、僧侶、傳道者等は支那の内政に干渉せず、若し刑事上の犯罪を犯せば悉く支那の裁判所に於いて裁判を受くべきである。

此等の主要なる諸點の外、ソビエット政府は他の問題に就いても支那國民の正當なる代表者と商議を遂げ、舊帝政政府が日本及び聯合國と共に支那に加へたる不法、不正の行爲を一齊に除去せんとするの用意がある。

ソビエット政府は、聯合國及日本が今日も亦凡ゆる手段を盡してソビエット國民の聲が支那國民に到達することを防ぐことを知つてゐる。彼等は支那より奪取したものを還付せんがためには、先づ滿洲、シベリアに占據する匪賊を一掃することが必要であるとの詭辯を弄してゐる。故にソビエット政府は反革命のコルチャック軍及びその同盟軍たる日本の羈絆より脱するがために戰つたシベリア農民、勞働者を援助するため、にウラルを越え東方に進軍しつゝ赤衛軍と共に、此の書簡を支那國民に送るものである。支那國民にしてロシア國民の如く自由ならんことを欲し、ヴエルサイユに於いて聯合國が支那を第二の朝鮮又は印度たらしめんとして、支那のために準備せる運命を免れんと欲するならば、支那の國民的解放の戰に於ける唯一の同盟者にして、同胞たるものはロシア國の勞働者、農民及びその赤衛軍なることを理解すべきである。

ソビエット政府は、支那政府を通じ支那國民に對し速かに我國と正式關係に入り、且つ我軍と會せしめるため、その代表者を派遣せんことを提議する』

以上の如き宣言の下にソビエット聯邦は對支不平等を撤廢すると共に、帝政ロシア時代支那より獲得した既得の權益をアッさりと放棄する極めて大膽卒直な友好的政策を示して支那國民の心を捉へ、ソビエットは支那國民に對する同情者であり、味方であるといふ觀念を扶殖することによつて支那赤化の巨手をさし延べ出したのである。

二、支那赤化の先驅者ヨッフエとカラハン

以上の如きソビエットの宣言は支那に對して直ちに直接的結果をもたらさなかつたが、支那の輿論は漸次これに刺戟され、露支交渉の開始を希望することに傾いて來たので、この氣運を洞察したモスコー政府は、一九二〇年九月廿七日重ねて右同樣主旨の通牒を發し支那南北兩政府に對し露支交涉の開始を促した。

ソビエットは斯の如くして外交的に露支國交恢復を要求すると共に、一方に於ては、コミンテルンをして支那共産運動の發展を策し、多數の共産黨員を送つて各部門にわたつて

の赤化工作に着手せしめたのであつた。即ち一九二〇年春コミンテルンは極東部長ウオイチンスキーを支那に派して、支那に於ける共産運動發展の基礎を作らしめた。ウオイチンスキーは李大釗、陳獨秀と協力して、遂に中國共産黨を創設した。次いでこれを中心として學生運動、勞働運動、農民勞働者の組織に着手し、一方北京に着任せるユーリン等協力し、盛んに黃金を散じて學生を懷柔し、共産運動擴大化に邁進した。

一九二一年コミンテルンは、更に多數の宣傳工作員を支那に派遣したが、その中に同年七月に行はれた中國共産黨第一次全體會議にコミンテルン代表として出席したマアリンは同十一月北伐の大本營桂林に於いて孫文と會見し、露支提携、モスコー共産黨との協力に依つて支那の革命を完成すべきことを說いた。これぞ孫文が聯俄容共を策し、後に國共合作を實現するにいたつた端緒となつたのである。

これより先北京政府に對しては、一九二〇年夏、シベリアに於ける時の極東政權ウエルフネ・ウジンスク政府はモスコー政府の意を受けて、ウラジオストツク、ブラゴエシチエンスク等の諸政權を代表せしめ、露支交涉開始の使命を以て極東共和國代表ユーリンを北京に派遣した。ユーリンは同年八月廿六日北京に到着、直ちに北京政府の外交部員と非公式に會見して交涉を開始したが、支那側は、

一、支那に共産主義を宣傳せぬこと

二、ロシア革命以後に於ける在露支那人の受けた損害を賠償すること

三、極東各地在留の支那人民の生命財産を保護すること

四、露支邊境に發生せる諸事件は調査の上取締りを行つて事件の再發を防止すること

の四個條の要求を提出し、兩者の間に交涉が進められるにいたつたが、種々の故障及び双方の間に意見の相背馳した點があつたゝめ、一九二一年一月、交涉は全く停頓、更に四月にいたつて交涉は再開されたるにも拘らず結局何等の協定も成立するにいたらなかつた。

以上の如く第一着手として目論んだユーリンの交涉失敗に終るや、モスコー政府は一九二一年十二月、更に特使としてバイケスを北京に派し、シベリアのチタ政權代表アガレフ

と共に交渉に當らせることにした。パイクスは外交總長顏惠慶と接衝して切りに交渉の好轉を急いだが、支那側の態度は依然として煮え切らず、爲めに交渉は停頓に停頓を重ねて何等の進捗も示さなかつた。

斯の如き狀態を示してゐる折柄、同年八月十二日モスコー政府に其の人ありと謳はれた辣腕家ヨッフェが北京に乘込んで來た。

ヨッフェは日露交渉の長春會議に出席するため九月二日北京を出發するに際して、當時の外交總長顧維鈞に速かに露支正式交渉を開始され度き旨を要求した。そこで北京政府も日露交渉の關係もあり、當時日本に於いては、衆議院に於いてモスコー政府承認案が提出されてゐた情勢に鑑み、日露の長春會議終了を俟つて露支正式交渉を開始することを發表するにいたつた。ところがヨッフェ代表は、長春會議で無理したゝめか病を得て轉地療養の必要に迫られ、時偶々後藤新平の招待によつて日本に渡つてしまつた。

一方支那側は翌一九二三年三月廿六日大總統令を以て、王正廷を中俄籌備善後事宜督辦（露支交渉準備代表）に任命して準備を整へて待つたが、遂にヨッフェと王正廷の交渉は實現するにいたらなかつた。然しヨッフェは渡日の途上、上海に立寄り直接孫文と會見して孫文の諒解を遂げてゐた。此のヨッフェ、孫文會見が抑々孫文の聯俄（露）容共政策となり、更に國共合作へと展開した因子であり、支那共產運動が發展するにいたつた遠因である。

此の兩者の會見後幾何もなくして、所謂『孫文、ヨッフェ共同宣言』が發表されたのであるが、此の聲明は露支提携の第一聲として近代露支關係に頗る重要な意義をもたらしたもので、全文は左の通りである。

孫文はソビエット聯邦支那派遣全權大使ヨッフェと共に下記の宣言を發表する。

ヨッフェは上海に於いて孫文と數次會見して、露支兩國の關係に就き種々意見の交換を遂げた。次の諸點は、特に重要な點であると認める。

（一）孫は、共產組織及びソビエット制度は、事實上支那に於いては適用不可能なりと認

めた。支那は共產組織及びソビエット制度をして成功せしめ得べき狀態には何等置かれて居らぬが故である。此の見解にはヨッフエも全然同感の意を表した。支那にとつて最も重要且つ焦眉の急を要する問題は國民統一の完成と國家獨立の獲得である。ヨッフエは此の大事業に就いて、支那はロシア國民の熱誠なる同情と援助とに依賴すべきことを勸告した。

（二）孫文はヨッフエに對し、一九二〇年九月廿七日付、ソビエット政府の對支通牒に列擧した原則につき再び切實に聲明せんことを要求した。ヨッフエは孫文に向ひソビエット政府は、帝制時代の露支關係條約（東支鐵道協約をも含む）廢棄の根本方針に就いて露支交涉開始の希望と準備を有する旨を重ねて宣明した。

（三）東支鐵道問題は、適當なる露支會議に於て解決さるべきである。孫文は東支鐵道管理の現狀を維持すべしと云ひ、ヨッフエも同意見であつた。現行鐵道管理法は露支兩國政府から意見を加へず、双方實際の利益と利權の上から見て、臨時改組すべく、孫文も之に付き張作霖と協議を行ふであらう。

（四）ヨッフエは孫文に對し、ソビエット政府は、外蒙古に於いて帝國主義を行ひ、或ひは外蒙古をして支那から分離せしめる意思を絶對に持たないことを正式に聞明した。孫文はこれに滿足の意を表した結果、ロシア軍隊は支那の實際の利益と必要上、當分外蒙古から撤退するに及ばざることゝした。それは現在の北京政府がロシア軍撤退後、白露の反赤軍陰謀及び敵對行爲の發生、並びに現在よりも重大なる局面が醸成された場合、これが防遏の實力を有せざるが故である。

尙ほ孫文は此の會見後、廖仲愷を日本の熱海に滯在中であつたヨッフエの許に派して、聯露容共、國共合作の具體的內容に關して詳細な打合せを行はしめたのである。

其の後ヨッフエの後任として駐支代表を命ぜられたカラハンは、一九二三年九月二日北京に到着した。そして翌一九二四年（日本の震災の翌年）二月廿日より、さきに露支交涉準備代表に任命された王正廷との間に交涉が開始され、兩代表の間に協定草案のみは成立

を見たのであつたが、北京政府の承認を得るにいたらなかつたので、四月十四日交渉は決裂に瀕した。玆に於いてカラハンは今度は直接外交總長顧維鈞と折衝することゝなり、約一ケ月半にわたつて交渉を重ねた結果、五月卅一日兩代表の間に協定成立調印を見るにいたつた。

右協定は、

（一）支那共和國及びソビエット社會主義共和國聯邦間の諸問題に關する協定

（二）東支鐵道暫行管理協定

（三）付屬諸宣言

（四）付屬交換公文

の四部より成るものである。

三、コミンテルンの活動

かくしてゐる中に一九二四年一月、支那に於ては國民黨の改組行はれ、國共合作成ると共に、ソビエット聯邦のコミンテルンに於ては協議の結果、ボロディン、ガロンを初め多數の優秀なる指導者を國民黨に入れる一方、財政的にも國民黨を援助した。此の結果國民政府は精鋭な國民軍を組織し、蔣介石は之を率ゐて孫文在世當時再度敢行したに拘らず、遂に達成し得なかつた北伐を完成し僅々二個年の短期間に一度は廣大なる支那全土を平定したのであつた。蔣介石の北伐の完成は一に國民革命軍の組織編成がソビエットの赤衛軍に則り、在來の舊式支那軍隊に比して單に訓練のみならず、その信念の上に於いても、軍紀の上に於いても格段に優秀なものであつたが故に、向ふ所敵なく、忽ちにして全支を風靡するにいたつたのである。

今次の支那事變に際して、蔣介石が當初よりソビエット聯邦に依頼する處多きものあるのは亦故なきに非ずと考へられるところである。尚ほ軍事方面のみに限らず、北伐の進行に伴ふ政治工作に於ても、また勞働運動、農民運動に於ても、ロシアのソビエット革命の

經驗に基く共産主義的戰術が採用せられ、國民黨の組織等に於ても、殆んどコミンテルンの指導に依る處が多かつた。從つてロシア人顧問は政府、軍部の各方面にわたつて配置せられてゐたので、北伐進行中で國共合作の最頂點に在つた一九二七年一月に於けるコミンテルンより派遣されたロシア人中の主要な人物はボロデイン（國民政府最高顧問）、ガロン（第一軍顧問）テイツマイノーフ（第四軍顧問）イーリン（第五軍顧問）マコイエフ（第七軍顧問）テイツタニー・ハツピー（第十一軍顧問）オボツノフタリ・クワイノツフ（總司令部顧問）カシテインニー（國民黨中央黨部軍人顧問）ママイエフ（中央銀行監督）ソミー・セルハンラク（航空局顧問）カレク・ウーライキマイロフ（海軍顧問）オーソイ（廣三鐵道局技師顧問）等で、支那政府の凡ゆる部門にコミンテルンの活動が行はれたのであつた。勿論これ等主要人物の下には更に宣傳員、組織員等の居たことは當然で、其の數は頗る多きに上つてゐたことであらう。

然るに一九二八年七月、突如國共分離が行はれ、續いて南京政府との斷交となつた結果上記國民黨及び國民政府に派遣した顧問、宣傳員及び領事等の外交機關は總て引揚げたのであつた。然しながら支那の共産運動に對し之を指導するために常に密切な關係を必要としたコミンテルンは、上海のコミンテルン駐在員をして直接指導の任に當らしめ、またモスコーの支那勞働者共産大學に於いて、支那人留學生を養成し、之を中國共産黨の全支各地支部に配して、學生運動、農民運動、勞働運動等を指導せしめて、猛烈な非公法的地下潜行運動を開始するにいたつた。其の結果の一つの現はれとして、一九二二年の香港の海員罷業及び翌一九二三年の日、英、佛、獨四國借款鐵道であつた京漢鐵道の罷業であつた。

次いで一九三五年、支那共産黨は李大釗、張國燾の指導の下に全國鐵道勞働者の再組織を遂げ、更に紡績勞働者の組織が進められ、斯くて上海、青島に頻々として罷業の勃發を見るにいたつた。

共産黨は更に進軍を續けて、全國的に反帝國主義、排外宣傳を行ひ、各地に於て學生聯

合會を先鋒として各勞働階級、各社會運動團體等を網羅した全支各地にわたる大反抗運動を煽動した結果、上海は勿論、廣東に於ける學生運動に始まり武昌、北京、長沙、鎭江、南京、天津、蕪湖、福州、廈門、青島、濟南、重慶、芝罘、宜昌、抗州、奉天、吉林、九江等の全支全土にわたつて打倒帝國主義、日英商品不買、領事裁判權回收、日英總領事の召還等を叫んで一大排外運動が行はれるにいたり、玆に於いて支那は赤化の溫床と化するにいたつた。

斯の如き大排外運動の結果は共產黨の勢力を著しく擴大强化せしめたのであつた。

一方北方に在つた張作霖政府は、反動的政策をとつてゐたのであるから共產主義の浸潤に對しては極度に畏怖してゐた。共產黨がモスコーのコミンテルン本部の指令を受けて、活動してゐること、更に北京駐在のソビエット聯邦代表である大使館がモスコーとの連絡部であり、且つ支那共產化の作戰本部であることが明瞭となるに從ひ、張作霖は一九二六年、カラハンの駐支在任に對してモスコー政府に抗議を發すると同時に、一九二七年一月には東支鐵道監査役楊卓がモスコー政府及び左翼將軍馮玉祥と內通してゐることが、暴露するにいたつたので、楊を銃殺の刑に處し、三月には張作霖の部將張宗昌は國民政府の最高顧問ボロディン夫人を濟南に監禁する等の事件があつた。これにも拘らず共產黨の指導に基く排外運動は益々熾烈となり、各國租界の回收を叫ぶにいたり、遂に九江の英租界は襲撃されたので、英國政府は一九二七年二月十五日軍艦五隻を支那に急派し、危險に備へた處、これに激昂した共產黨は極めて挑戰的な態度を示し、排英運動は愈々惡化の一途を辿り、遂に同年三月廿四日、蔣介石の率ゐる北伐軍は南京を占領し、北軍を追擊して入城するや、國民革命軍中の共產派は、英米人に對して掠奪を行ひ、所謂南京事件を惹起したのである。

玆に於いて英米兩國軍隊も遂に發砲し、事態は重大化し、英國政府は更に印度兵三個旅團及び海軍陸戰隊等合計一萬三千の兵を上海に派遣して危險に備へたのであつた。

次いで尙ほ四月三日漢口に於いては、共產黨の糾察隊は日本租界の回收を叫んで、租界に

殺到し、我軍と衝突し、更に同十日蘇州日本領事館は共産暴徒に包圍され、領事以下は監禁され、掠奪の憂き目に逢つた。列國は此の事態に對し日英始め爾餘の各國共漸次態度硬化した結果、日本以下各國共上海その他に軍艦を增派し、又は陸戰隊を上陸せしめ重大なる國際問題を惹起せんとする形勢に直面するにいたつたのである。

四、露支斷交

玆に於いてか、北京政府は事態の容易ならぬことに氣が付き、其の結果斷乎共産黨を彈壓する方針を漸く決定した。

先づ左派學生を多數逮捕して種々取調べを行つた結果に基いて一九二七年四日六日、遂に北京のロシア大使館を軍隊を以て包圍し、支那赤化政策の證據品多數を押收すると共に支那共産黨の巨魁李大釗以下共産黨員廿餘名、ロシア人十六名を逮捕し、李大釗以下の首腦者を卽日死刑に處した。同時に外交部はソビエット代理大使チエルニエフ及びモスコー政府に對して嚴重な抗議を發した。これに對しソビエット政府は大いに憤激し、支那に對し逆捻的抗議を提出すると共に、北京駐在のチエルニエフ代理大使に本國引揚げを電命、玆に露支兩國間の國交は斷絶するにいたつた。

一方南方政府に於いても、蔣介石はソビエット政府の態度及び南京事變に憤慨して上海に於ける共産黨彈壓を斷行し共産派と絕緣して玆に始めて南京政府を樹立したのである。

更に上海に派遣せられた英國軍隊は、共同租界工部局警察と協力して、共産黨の策源本部と認定されたソビエット領事館を數回にわたつて包圍調査した。これと相次いで北京政府に於ては北京ソビエット大使館捜査の際に得た證據に基き、奉天駐在のソビエット領事が共産運動を指導しつゝあつたことが明白となつたので同總領事の追放を斷行した。

斯くして南北兩政權より徹底的に彈壓された共産黨は、これがため狂暴化し、同年四月廿一日、再度漢口の大掠奪を行ひ、佛租界を襲撃する等の事態を惹起し、遂に武漢に於ける外人大虐殺陰謀が暴露されたので、武漢政府も共産派と全く絕緣して國共分離を示すに

いたつた。

斯の如く南北兩政權に依る共産黨排撃益々酷烈となるや、共産黨はコミンテルンの指令に基き、武裝暴動とテロリズムとに依つて一擧に共産革命を實現せんと期し、八月一日南昌を占領して武裝暴動を敢行し、全支にわたつて恐怖時代を出現し、遂に十二月十一日廣東に大暴動を起し、一時廣東政府は共産黨に占領せられたのであつた。此の大暴擧の指導本部に、ソビエット領事館員が參加してゐたことは當時周知の事實として指摘された。

その結果南京政府も亦十二月十四日ソビエットとの斷交を宣言し、翌十五月廣東のソビエット總領事館を捜査し、總領事ボカバリンスキー以下全館員を逮捕し、一方上海に於ても共産黨本部及び商務委員事務所を捜査して多數の證據書類を押收した。之に對してソビエット政府は支那側の不法を鳴らして嚴重抗議を行つたが、支那側亦之に反駁し、國民政府は遂に十二月廿三日、在支ソビエット領事館の閉鎖、ロシア人經營の商業機關の停止、及びロシア人の引揚げを要求して共産黨彈壓は最高潮に達した。

此の結果、共産黨は地下に潜入して、地方農民を組織し、各地にソビエット區を創設して共産軍の培養擴大を企圖し、盛んに各地に出沒して、各都市部落を襲撃するにいたり、赤化策戰の方向を一時地方に求めるにいたつた。從つて當時專らソビエットとの緊密化を圖りつゝあつた馮玉祥と國民政府との關係は惡化を示した結果、兩者の間に開戰を見るにいたつたのであつたが、國民政府は馮の背後にソビエットの支持あることを明白に突き止め得たので一九二九年五月廿七日、北滿各地のソビエット領事館に對して、一齊捜査を斷行せしめた結果、ハルピン總領事館より滿蒙赤化に關する多數の秘密文書を發見した。その文書によつてハルピン領事館內に第三インターナショナルの北滿支部が設置され、北滿に於ける映畫赤化宣傳、共産婦人團體の赤化事業參加、在支白系ロシア人の行動探知に對する密偵組織、天津に於ける共産黨の活動、ソビエットの馮玉祥援助に關する各種計畫等が一切白日下に暴露されたのであつた。

五、奉露戰勃發

以上の様な露支兩國關係の惡化に加へて、東支鐵道を繞る兩國の紛爭は更に一層兩國關係に拍車を駈けた。ロシアは一九二〇年の對支宣言に於て、ソビエット革命の理想を强調して支那の歡心を買ふべく、東支鐵道の特權放棄を聲明したるに拘らず、一九二四年奉露協定を遂げて、東支鐵道の露支共管主義を協定して了ひ、再び東支鐵道に對する勢力を恢復したのである。

然るに支那側は、その後に於けるソビエットが第一次五ヶ年計畫實現等の國內諸問題に沒頭せざるの餘儀なきに立ち至り、支那に對して消極的となつた間隙に乘じて、利權回收の强硬方針を以て一九二九年七月九日深更、突如として軍隊を派し、東支鐵道沿線の電信權を回收せるを手始めとして、東支鐵道局長エムシャーノフを罷免監禁し、ソビエット側高級從業員二百名を馘首し、ソビエット通商各機關、並びに職業同盟、鐵道從業員クラブ

その他を閉鎖し、ロシア人幹部を國外に追放し一擧武力を以て、同鐵道の全面的回收を斷行して了つたのである。

これに憤激したロシア側は遂に九月十八日露支外交關係の全面的卽時斷行を宣言し、支那に駐在する自國の外交代表、領事通商代表、東支鐵道ロシア側役人の引揚げ、露支鐵道連絡の中止、駐露支那外交代表及び領事の退去を通告すると共に、露支國境を越えてソビエット軍隊を進軍せしめ、遂に奉露戰の勃發となつた。ロシア側は廿六機の空軍を始め、戰車その他の近代科學戰器を加へた有力精銳な赤軍を以て十一月十七日より進軍を開始し大いに支那軍を擊破して同月廿日には滿洲里を占領してしまつた。玆に於て奉天側はその不利を察した結果、ソビエット側と直接和平交涉を開始せんとする氣運が濃厚となり、國民政府も亦圓滿なる解決を遂げやうと苦慮し始めたが、折しも南支に於て反蔣運動が蜂起したので國民政府は狼狽し、一度中央の手中に收めた東三省外交權を還元して奉露直接交涉を承認するにいたつた。よつて張學良は十一月十八日、ハルビン交涉員蔡運竹に命じ、

同地のソビエット總領事メリニコフと單獨交渉を開始せしめ、數次の交渉の結果、十二月三日ハバロフスクに於て東支鐵道の原狀恢復を條件とした議定書に假調印を遂げ漸く奉露兩軍は砲火を收めた。其の後同月廿二日露支兩國政府の間に正式調印を了した結果、東支鐵道は一九三〇年一月六日再び全線開通の運びとなつたのであつたが、ハバロフスク協定に基く露支正式會議は、モスコーに於て開催されることゝなつてゐたゝめ、同年五月一日國民政府全權莫德惠はハルピンを出發モスコーに赴き豫備會談を行ふこと數ケ月、十月十一日に至つて漸く第一回正式會議が開かれた。右會議の席上莫德惠がハバロフスク協定の無條件承認を拒絶したゝめ、會議は忽ち暗礁に乘り上げ、交渉は停頓するのみで翌一九三一年に入るも何等の好轉を示さなかつた。

六、露支國交恢復

斯くして以上の如くモスコーに於ける交渉か遲々として進捗を示さなかつた。折しも同年（昭和六年）九月十八日、日支間に滿洲事變の勃發を見るにいたつた。

支那側は滿洲事變を國際聯盟の問題としたので、全世界は此の日支紛爭の渦中に捲き込まれてしまつたので、東支鐵道問題の如きは何等省る暇もなく、從つてモスコーに於ける交渉も一時立消えの姿となつた。

然るに翌一九三二年にわたつた國際聯盟に於ける日支紛爭討議の經過は、日本と聯盟との妥協が全く不可能であることが明瞭となつたので、支那側は日本を牽制するために、急速に露支國交恢復を遂げる意思を抱いてゐた際、孫科、陳友仁等の復交論に刺戟され、當時の行政院長汪兆銘も復交論に傾いたので、遂に六月三日及び六日の中央政治會議は、原則的に露支復交案を可決するにいたつた。其の結果支那側は在露代表王曾思をしてモスコー政府との間に露支不可侵條約締結を條件として國交恢復を提議せしめた。處が支那側がソビエットの支那に於ける赤化宣傳絶對禁止の條項を固く主張したので、支那赤化を目標とするソビエット側と意見一致せず、交渉は容易に進展を示さなかつた。然るにソビエツ

ト側は密かに代表ロシノフ及びソコロスキーを南京に派遣し、外交總長羅文幹との間に交渉を進め、一方又ジユネーヴに於て支那代表顏惠慶とソビエット外務人民委員長リトヴイノフとの間にも交渉を進める等、外交の秘術をつくして遂に支那側の主張であつたソビエットの支那に於ける赤化宣傳禁止條件を撤回せしめることに成功し、玆に露支復交交渉は成立を見るにいたり、一九三二年（昭和七年）十二月十二日、日支紛爭の聯盟會議の最中に突如として露支國交恢復を發表して世界の視聽を聳たしめた。かくて露支國交恢復するや、ソビエット側は直ちに南京を始め北平、天津、上海等の各地に商務代表を設け貿易の增進に着手すると共に一九三三年（昭和八年）四月ボゴモーロフを大使に任命して南京に送つた。（同大使は今次の支那事變發生以來最近にいたるまで南京に於て暗躍を續けてゐた）

一時問題となつた露支不可侵條約に就ては、其の後一向に進捗の形跡がなかつたが支那事變發生と共に露支間の軍事密約其他となつて漸く現はれたことは注目すべきであらう。

露支國交恢復によつてソビエットは支那に於て公然と赤化宣傳をなし得ることゝなつたので再び時機到來とばかりに全力を擧げて支那赤化に驀進し、今次の支那事變勃發するやソビエットの支那赤化工作は最頂點に達したが、今後のソビエットの一擧手一投足は日支間の眞の友好確立を目指して遂に起つた帝國にとつて最大の關心事であらねばならぬ。

支那共産軍

一、共産軍の概念

中國共産黨の發表する處に從へば、支那共産軍は支那共産黨が武力鬪爭を行ふために有する武裝團體の總稱であり、その中には黨の正規軍とも云ふべき所謂紅軍の外各種の義勇軍等が含まれてゐるとのことである。

然しながら共産軍の主體と看做されるものは紅軍であるから、先づ紅軍に就いて若干檢

討を加へることゝする。

紅軍の組織を見るに、方面軍、軍團、軍、師團、營、連、排等に區分した所謂三單位制（三個營が一個團、三個團が一個師、三個師が一軍といつた工合に）を採用してゐる。裝備は未だ中央軍のやうに充實されて居らず、殊に兵器の補充には相當困難を來してゐるため、徒手だけの兵とか、刀槍の類しか持たない部隊もある。たゞ軍隊の外に多數の人夫、及び政治工作員を有してゐる事は、他の軍隊と比べて特種な差異として見られやう。

この政治工作員は、軍隊内部に對し將兵の政治的訓練、及び共産主義教育等に任じ、戰時には一般軍隊に見られるやうな督戰隊の役割をも行ふことゝなつてゐる。更に一歩進んで共産軍の占領地域に於ける行政及び宣傳を掌る等相當廣汎な權限を有してゐる。

共産軍は以上の如く軍需品の補充に困難を感ずるとか、或ひは裝備が不充分であるため平地に於て堂々と戰陣を張る様な戰法を回避して、務めて交通不便な山間僻地に據つて敵を迎へ討つとか、或ひは好んで奇襲遊擊の戰法を採用してゐる。一方軍事行動と併行して宣傳、謀略等の政治工作を相當抜目なくやるといふ點に特長を有するのである。卽ち共産軍が從來一地方を占領すると、直ちに機を逸せず共産政治區を建設して、土地法、勞働法等を施行し、共産黨獨特の所謂工農政治工作を行ふのであるが、その中でも最大の特色は所謂分田制度の施行、つまり地主、富農の持つてゐた土地を沒收して、これを貧農、窮民に公平に分配することである。この様なやり方が連年天災や苛斂誅求に苦しんで疲弊のど底に喘ぐ下層農民階級には、絶大な魅力となつて共産軍の大をなした所以であらう。

二、共産軍の勢力分布

前後七年の間、揚子江中流地方の江西省及びその周圍の地方で猛威を振ひ、優勢なる中央軍及地方軍を以て莫大な軍費を投じて實行された五回にわたる蔣介石の大討伐行に對しても、頑として屈しなかつた共産軍主力は、昭和九年十月頃に至つて、突如四川省方面に大移動を開始するにいたつた。この共産軍の江西省放棄の眞因に就いては巷間種々噂され

てゐたが、要するに共産軍の孤立的活動地域から直接ソビエットと連繫し得る所謂西北路線への移動、積極的都市攻略から邊境地方に待機保身への轉移、更に膠着作戰から機動作戰への轉換の結果であつたと見られる。

從つて西北路線への移動は何等共産軍の衰退を意味したものでなく、寧ろその將來における活動の積極化を物語つたものであることは、西安事變及び今次の支那事件に際しての共産軍の進出振りが雄辯にこれを物語つてゐる。

さて共産軍の主なる地域的分布は次の如くである。

(一) 朱毛軍及徐向前軍

江西省共産軍の主力であり、共産軍全體の主力として有名な朱德、毛澤東（朱毛軍といふ）の指揮する約五萬の兵力は昭和九年秋、江西省から西遷を開始して以來、湖南、貴州、雲南の各省を經て十年六月四川省西北部に達した。この大異動は八ケ月にわたり、三千粁の行程を踏破したもので、四周の中央軍による剿匪軍を對手にしつゝ南支に於ける錯綜せる大河、重疊たる山嶽等の障碍を突破し、無事その目的を達したもので、此の一事を以てしても共産軍の機動力の偉大なものであるといふことが考へられ、軍事的に見ても、その手腕に深く感歎せざるを得ないのである。

一方從來四川省東北部に蟠居してゐた徐向前の率ゐる約五萬は昭和十年春以來朱毛軍の移動に策應して西方移轉を開始し、中央軍を擊破して遂に同年六月下旬四川省西北部に於いて朱毛軍と合體するに至つたのである。

然しながら、同地方は標高五百米乃至千數百米に達する高山地帶であつて、荊棘未開の蕃地であり、物資に乏しく、氣候寒冷である等、長期にわたる大軍の駐屯を許さない狀態であつた。これがため合體した共産軍は同地方面駐屯約一ケ月にして七月下旬頃から再び北上を開始し、甘肅、青海省境方面に移動を始めたのであるが、此の間最高幹部間に俄然爾後の行動に就いての意見の扞格を來すにいたつた。その結果、ソビエットの勢力に隣接する地方に到達して後圖を策せんとする毛澤東は共産軍の中でも、最も精銳な約二萬を以

て東北進を續け、甘肅、陝西省に侵入し、陝西省を中心として蟠居してゐた劉子丹、徐海東等と提携して同地方に確乎たる地盤を作り上げた。

そこで毛澤東は先づ昭和十年暮から山西省の西境を脅かし、閻錫山の必死の防禦陣も十一年二月に入つて脆くも破れ、山西の大半が共産軍の跳梁に委されたことは周知の事實であり、今次の支那事變勃發に際しても綏遠、山西の一角に蟠居して、その巧みなる機動力を利用して、大同方面に進出した我軍に對してあらゆる手段を以て抵抗したことは當時の新聞電報によつても明かである。

一方毛澤東軍と分れた朱德、徐向前の部隊は四川省に反轉し、昭和十年末には成都西方の山地帶で活動を開始し、十一年に入つてから西康省に手を延ばし、活躍を續けてゐたが同年六月に入つて賀龍、蕭克の共産軍を合せたので、更に同地方に於て飛躍を試み、この朱德を中心とする部隊は、毛澤東軍と大同團結すべく又もや甘肅、青海を經て北進を開始し、支那事變前には完全に合體を終つたと傳へられてゐる。

（二）劉子丹及徐海東軍

從來陝西省北部には劉子丹、南部には徐海東がそれ〳〵共産軍の地盤を築いてゐたが、昭和十年秋、兩者は完全に合體し、續いて上述の如く毛澤東の傘下に投じたのである。

（三）賀龍、蕭克軍

賀龍、蕭克軍は從來湖南省西北地方に活動してゐたが昭和十年暮頃、湖南省西南部に向つて移動を開始して、十一年六月上遡の如く朱德軍と合體したのである。

以上の三つの系統が共産軍としては、其の勢力強大なものとされて居り、此の他には湖北安徽方面の徐彥剛、高俊亭、吳煥先を始め江西、福建その他の方面にも若干の共産軍が蟠居してゐるが、兵力も僅かであるから省略することにしたが、共産軍の總兵力は約卅萬である。

以上が支那事變發生前までの支那共産軍活動狀況の概觀である。共産軍は今やその離合集散も落ちつくところとに落ちついて、大部分が西北地方面に集結を了し、時恰かも日支

事變に際會したゝめ國民政府とも完全なる妥協を了し全力を擧げて抗日に轉じた。

三、支那共産軍活動の本源

支那共産軍の活動の本源はソビエットであることは申すまでもないことであるが、支那事變直前までは、あらゆる手段を以て我國に對してまで赤化工作を行ひつゝあつたのであるから決して馬鹿にしたものではない。

かのコミンテルの赤化新動向とも云ふべき『反ファシズム統一戰線强化』『帝國主義者の第二次世界大戰準備擊破』なる二大目的の達成が、第七回コミンテル大會議決の新戰術即ち『分派的相手觀念一掃』と『ブルジョアをも含む大衆獲得』を絶對必要手段と認めるといふ方式に基いて所謂『人民戰線』と云ふ標語の下に大衆に呼びかけ、支那を通じて最後に日本までこれを及ばさんとしてゐる。支那共産軍は今や完全にソビエット國際共産黨の走狗となり、赤の祖國が背後に控へ、支那軍將領またこれを紙一重の差でしかあり得ない存在であるから我國としては、これを從前通り對岸の火災視するわけには行かないのである。假に支那事變の終了後、共産軍が國民政府と入れ換つて支那の國政を擔當するやうなことになつたとしたら如何、その結果は說明を要するまでもあるまい。

ソビエット政府は表看板からのソ支密約、ソ蒙援助條約と相俟つて、コミンテルの擔任役割とする裏道からの策謀によつて、支那學生層の排日運動、民衆の抗日觀念等を今後支那戰敗の國民的敵愾心を利用して益々助成し、更にこれを他の勢力と絡らませて、再び全面的支那の對日抵抗を激化せしめんとするソビエットの策動に關しても無關心たり得ぬものである。コミンテルンの永久的企圖である日本工作の大陸路に橫たはる一つの媒介體である支那共産軍並びに共産黨の今後の動きは、日本としては絶對に見逃すことの出來ぬバルスであらう。さればこそ今次の支那膺懲戰は防共の聖戰としての重大意義をも持つものである。

共産軍（紅軍）の組織、編制

一、共産軍の發生

中國共産黨が勞働者、農民を組織武裝せしめて、共産軍として活動を開始したのは、國民黨との分離直後、九江に於て開かれた八七緊急會議の結果、武裝暴動の擧に出た時に始まる。それが朱德、毛澤東の共産軍であつた。其の後共産軍は各地に遊擊して續々共鳴者を得た結果一九三〇年春頃までには、これ等共鳴者の中よりそれ〴〵幹部を任命し、その活動區域を決定したが、當時の幹部及び活動區域は次の如くである。

軍名稱	軍長	政治委員	活動區域
第一軍	許繼愼（一九三一年中央のスパイとして死刑さる）	曹大靖	湖北、河南、安徽邊界（機動性を有する共産軍なれば時により非常な變化あり）
第二軍	賀龍	陳叶平	湖南、湖北兩省西部邊界
第三軍	羅炳輝	曾如柏	江西省西部及南部
第四軍	朱德	毛澤東	江西、福建、廣東三省邊界
第五軍	彭德懷	滕代遠	湖南、湖北、江西三省邊界
第六軍	鄺繼勛	周逸群	漢口以西湖南邊界
第七軍	張雲逸	鄧希賢	廣西省內右江左江流域地方
第八軍	黃公略	鄧乾元	江西、湖北、湖南三省邊界
第十一軍	李明瑞	古大存	廣東省東部
第十二軍	鄧逸	鄧子恢	福建省西部
獨立第一集團	方志敏	李上達	江國省東北部

二、共産軍の組織

共産軍（紅軍）の組織編成

共産軍の組織はその不斷の戰鬪活動の實際に應じて改變されて來たのであるが、その最高の軍事機關は中央革命軍事委員會であつて、これが軍事指揮の全責任を負ひ、各區に軍事委員會辨事處を設置し、辨事處は各地方を幾つかの軍區に區劃し、軍區軍事委員會を設けて各區の軍事を統轄せしめてゐる。

而して共産軍の政治組織は次の如くである。

（イ）總政治部

中央局及中央軍事委員會の直接指導を受け、その下には秘書處、出版部、宣傳煽動部、調査登記部、組織分配部、通信部、審査委員會を設置してゐる

（ロ）軍區政治部

總政治部に直屬し總務部、軍校部、宣傳部、組織部、通信部を置く

（ハ）軍政治部

その內部に秘書處、宣傳煽動部、組織分配部を置く

（ニ）師政治部

秘書處、宣傳煽動部、組織分配部の外に政務部を設置する

（ホ）團政治部

軍人通信部、經濟委員會、俱樂部を設置す

（ヘ）連政治指導員

宣傳隊を管理し、軍事通信を辨理する

尙ほ軍隊の種類は所謂紅軍、卽ち正規軍を主力部隊とし、その他に赤衞隊、遊擊隊、守備隊、少年先鋒隊、特務隊等の民衆組織を有してゐるが、各隊の任務は次の如くである。

1、正規軍

紅軍又は赤軍と呼ばれてゐる共産黨軍隊の主力を成してゐる。一九二八年以來の永い戰爭經歷を有し、今日では支那の諸軍隊中最も精銳な軍として蔣介石直系の中央軍最銳部と並び稱されてゐる。國民政府は今次の支那事變まで、これを共匪と呼んでゐるが、單